

第2部

リファレンス編

第4章	設定ページリファレンス	177
第5章	活用例（アナログ設定）	347
第6章	活用例（ルータ設定）	421
第7章	運用管理とメンテナンス	599
第8章	トラブルシューティング	641

第4章 設定ページリファレンス

4

4

この章では、

本装置の代表的な接続形態のいくつかを紹介します。

かんたん設定（インターネットへISDN 接続）	179
かんたん設定（インターネットへフレッツ・ISDN 接続）	182
かんたん設定（インターネットへ専用線接続）	185
かんたん設定（オフィスへISDN 接続）	187
かんたん設定（オフィスへ専用線接続）	190
かんたん設定（オフィスへフレームリレー接続）	192
かんたん設定（アナログポート）	194
「詳細設定」で設定する	195
詳細設定メニューを表示する	196
回線情報設定	197
LAN 情報設定	201
ルーティング情報設定（LAN 情報）	211
IPv6 ルーティング情報設定（LAN 情報）	212
VRRP グループ情報設定	213
VRRP トリガ情報設定	215
相手情報設定	217
ネットワーク情報設定	220
接続先情報設定	239
ポートルーティング情報設定	250
ルーティング情報設定（ネットワーク情報）	251
IP フィルタリング情報（ネットワーク情報）	252
TOS 値書き換え情報（ネットワーク情報）	254
静的NAT 情報設定	256

帯域制御 (WFQ) 情報設定	258
静的マルチホーミング情報設定	260
IPv6 ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)	262
IPv6 フィルタリング情報	263
MAC フィルタリング情報設定	265
不特定相手情報設定	267
IP フィルタリング情報 (不特定相手情報)	270
TOS 値書き換え情報 (不特定相手情報)	272
PPP 受諾認証情報	274
ルーティングプロトコル情報設定	275
BGP 広報ネットワーク設定	279
BGP 相手情報設定	281
装置情報設定	283
パスワード情報設定	290
E メールエージェント情報設定	291
メールチェック情報設定	294
宛先メールアドレス設定	298
条件設定	299
TEL メール情報設定	300
ProxyDNS 情報	303
ProxyDNS 情報設定 (順引き)	305
ProxyDNS 情報設定 (逆引き)	307
ホストデータベース情報	309
ホストデータベース情報設定	311
スケジュール情報	312
月間 / 週間予約設定	314
電話番号変更予約設定	315
構成定義切替え予約設定	316
マルチTA 情報	317
IPsec / IKE 情報	319
IPsec 情報設定	321
IKE 情報設定	325
IKE SA 情報設定	327
アナログ共通情報	328
アナログポート 1 / 2 情報	332
発信規制情報設定 (発信抑止)	338
発信規制情報設定 (発信許可)	339
送出着信番号情報	340
識別着信情報	341
識別着信情報設定 (デフォルト定義)	343
識別着信情報設定 (公衆電話着信)	344
識別着信情報設定 (発信者番号非通知着信)	345
識別着信情報設定	346

かんたん設定（インターネットへISDN接続）

かんたん設定（インターネットへISDN接続）

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] **ISDN** 

接続先の電話番号	
ユーザ認証ID	
ユーザ認証パスワード	

[オプション設定] **ISDN** 

Si-R130のIPアドレス	192 168 1 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0) 
DNSサーバ	☒ 自動取得
接続先の電話番号2	
接続先の電話番号3	
無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	internet
接続先名	ISP-1
MP	☐ 使用する(手動) ☐ 使用する(自動) ☒ 使用しない
テレホーダイ	☐ 使用する(手動) ☐ 使用する(自動) ☒ 使用しない
かんたんフィルタ	☒ 使用する ☐ 使用しない

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

4

[必須設定]

接続先の電話番号

半角数字 32 桁以内で指定します。 -、(、) が区切り文字として使えます。

《指定例》

01-2345-6789

01(2345)6789

ユーザ認証ID

接続先より通知された ID を半角英数字 64 文字以内で指定します。

ユーザ認証パスワード

接続先より通知されたパスワードを半角英数字64文字以内で指定します。

[オプション設定]

Si-R130のIPアドレス/ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを指定します。ただし、既存のネットワークに接続するのでなければ、修正は不要です。

IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

DNSサーバ

必要に応じて接続先、またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを指定します。指定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略、または0.0.0.0を指定する場合は、広報を行いません。また、“自動取得”をチェックする場合は、本装置のIPアドレスをDNSサーバアドレスとして広報します。実際のDNSサーバアドレスは回線接続時に相手システムより取得し、ProxyDNS機能が名前解決を行います。自動取得は相手システムがDNSサーバアドレスの広報機能(RFC1877)をサポートしている場合にだけ使用できます。

接続先の電話番号2 / 3

マルチダイヤルを行う場合に指定します。記述方法は、接続先の電話番号と同じです。

無通信監視タイマ

ISDN回線の無通信監視タイマを0～3600秒の範囲で指定します。その時間を超えても、通信が行われなかった場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を指定した場合は、自動切断を行いません。

課金単位時間

課金単位時間を0.0～3600.0秒の範囲で指定します。ここで指定する時間は無通信監視による回線切断のときに参照され、同一料金で最大の接続時間を得るよう回線切断タイミングを調整します。なお、0を指定した場合は、課金単位の調整を行いません。

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

接続先名

接続先を識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

MP

MP 接続をするかどうかを選択します。“自動”の場合は、データ通信量に応じて適宜増減します。“手動”の場合は、「操作メニュー」の「手動チャンネル増加」「手動チャンネル減少」を用いてチャンネルの増減を行います。

テレホーダイ

テレホーダイなどのサービスを利用する場合に回線接続保持機能を使用するかどうかを選択します。“自動”の場合は、毎日夜11:00～翌朝8:00の時間帯は無通信監視タイマによる回線の自動切断を行いません。“手動”の場合は「操作メニュー」の「テレホーダイ設定」「テレホーダイ終了」を用いて開始/終了を行います。“自動”の場合には、必ず装置の時刻を正しく設定します。

かんたんフィルタ

かんたんフィルタは、通常の使用方法で起こりやすい以下の問題を回避するためのIPフィルタを簡単に設定できます。

Windows NT[®]、Windows[®] 95などによるMicrosoft Networkを使用している場合、お客様のネットワーク設定によっては、NetBIOS over TCPによって定期的に送出されるパケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、NetBIOS over TCPが使用するTCPおよびUDPのサービスポートの137から139を遮断するフィルタを設定します。ping (ICMP echo) などのコマンドにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ICMPプロトコルによる自動発信を抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態にある時にはICMPパケットを通過させます。

syslog、TIME、NTP (SNTP) により自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、それぞれのプロトコルによる自動発信を抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態にある時にはそれぞれのパケットを通過させます。

Windows[®] 2000から本装置を経由してインターネットへ接続する場合、Windows[®] 2000が送信する予期しないDNSパケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ProxyDNS情報に問い合わせタイプがSOA (6)、SRV (33) のDNSパケットを破棄するフィルタ、ホストデータベース情報にIPアドレスが「127.0.0.1」のホスト名は「localhost」を設定します。

かんたん設定 (インターネットヘフレッツ・ISDN 接続)

かんたん設定(インターネットヘフレッツ・ISDN接続)

このページでは、NTT東日本およびNTT西日本の「フレッツ・ISDN」を利用し、インターネットへ接続する設定ができます。

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] ISDN 

接続先の電話番号	
ユーザ認証ID	
ユーザ認証パスワード	

[オプション設定] ISDN 

Si-R130のIPアドレス	192 168 1 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0) 
DNSサーバ	☒ 自動取得
無通信監視タイマ	☐ 使用しない ☒ 使用する 300 秒
接続ネットワーク名	internet
接続先名	ISP-1
かんたんフィルタ	☒ 使用する ☐ 使用しない

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[必須設定]

接続先の電話番号

半角数字を 32 桁以内で指定します。 -、(、) が区切り文字として使えます。

《指定例》

01-2345-6789

01(2345)6789

ユーザ認証ID

接続先より通知された ID を半角英数字 64 文字以内で指定します。

ユーザ認証パスワード

接続先より通知されたパスワードを半角英数字64文字以内で指定します。

[オプション設定]

Si-R130のIPアドレス/ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを指定します。ただし、既存のネットワークに接続するのでなければ、修正は不要です。

IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

DNSサーバ

必要に応じて接続先、またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを指定します。指定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略、または0.0.0.0を指定する場合は広報を行いません。また、“自動取得”をチェックする場合は、本装置のIPアドレスをDNSサーバアドレスとして広報します。実際のDNSサーバアドレスは回線接続時に相手システムより取得し、ProxyDNS機能が名前解決を行います。自動取得は相手システムがDNSサーバアドレスの広報機能(RFC1877)をサポートしている場合にだけ使用できます。

無通信監視タイマ

ISDN回線の無通信監視タイマを0～3600秒の範囲で指定します。その時間を超えても、通信が行われない場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を指定した場合は、自動切断を行いません。

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

接続先名

接続先を識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

かんたんフィルタ

かんたんフィルタは、通常の使用方法で起こりやすい以下の問題を回避するためのIPフィルタを簡単に設定できます。

Windows NT[®]、Windows[®] 95 などによる Microsoft Network を使用している場合、お客様のネットワーク設定によっては、NetBIOS over TCP によって定期的に出されるパケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、NetBIOS over TCP が使用するTCPおよびUDPのサービスポートの137から139を遮断するフィルタを設定します。ping (ICMP echo) などのコマンドにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ICMP プロトコルによる自動発信を抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態にある時にはICMP パケットを通過させます。

syslog、TIME、NTP (SNTP) により自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、それぞれのプロトコルによる自動発信を抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態にある時にはそれぞれのパケットを通過させます。

Windows[®] 2000 から本装置を経由してインターネットへ接続する場合、Windows[®] 2000 が送信する予期しないDNSパケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ProxyDNS 情報に問い合わせタイプがSOA (6) \ SRV (33) のDNSパケットを破棄するフィルタ、ホストデータベース情報にIPアドレスが「127.0.0.1」のホスト名は「localhost」を設定します。

かんたん設定（インターネットへ専用線接続）

かんたん設定（インターネットへ専用線接続）

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] 

Si-R130のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線速度	☐ 64Kbps ☒ 128Kbps
DNSサーバ	

[オプション設定] 

接続ネットワーク名	internet	
ドメイン名		
アドレス変換	☒ 使用しない ☐ マルチNAT	
	グローバルアドレス	
	アドレス個数	個

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

4

[必須設定]

Si-R130のIPアドレス/ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを指定します。マルチNATを使用する場合は、ローカルなIPアドレス、使用しない場合は、プロバイダから割り当てられたIPアドレスを指定します。IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

使用する回線速度

使用する回線速度を選択します。

DNSサーバ

接続先、またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを指定します。指定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。0.0.0.0を指定した場合は、広報を行いません。

[オプション設定]

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

ドメイン名

必要に応じて接続先、またはネットワーク管理者に指示されたドメイン名を半角英数字80文字以内で指定します。省略する場合は、DHCPサーバによる広報を行いません。

アドレス変換

マルチ NAT を使うとプロバイダから取得している IP アドレス個数以上の端末を使用できます。使用する場合は、“マルチ NAT”を選択します。WAN 側に固定のアドレスを1つ、または複数持っている場合は、“グローバルアドレス”と“アドレス個数”を指定します。“アドレス個数”は1～16の範囲で指定できます。“グローバルアドレス”を先頭とする“アドレス個数”分のアドレスが本装置のWAN IPアドレスとなります。

かんたん設定（オフィスへISDN 接続）

かんたん設定（オフィスへISDN接続）

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] **ISDN** 

接続先の電話番号	
ユーザ認証ID(発信)	
ユーザ認証パスワード(発信)	
ユーザ認証ID(着信)	
ユーザ認証パスワード(着信)	
SI-R130のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
SI-R130のネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192 . 168 . 2 . 1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)

[オプション設定] **ISDN** 

DHCPサーバ機能	☐ 使用しない
	☒ 使用する
	DNSサーバ広報 192 . 168 . 1 . 1
無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	localnet
接続先名	OFFICE-1
MP	☐ 使用する(手動) ☐ 使用する(自動) ☒ 使用しない
ヘッダ圧縮	☒ VJ ☐ IPヘッダ圧縮
データ圧縮	☐ LZS

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

4

[必須設定]

接続先の電話番号

半角数字 32 桁以内で指定します。 -、(、) が区切り文字として使えます。

《指定例》

01-2345-6789

01(2345)6789

ユーザ認証ID / パスワード（発信）

本装置から発信接続するとき使用する認証IDとパスワードを半角英数字64文字以内で指定します。

ユーザ認証パスワード / パスワード（着信）

本装置から着信接続するとき使用する認証IDとパスワードを半角英数字64文字以内で指定します。

Si-R130のIPアドレス / ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを指定します。ただし、既存のネットワークに接続するのでなければ、修正は不要です。

IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

相手ルータのIPアドレス / ネットマスク

相手ルータのIPアドレスとネットマスクを指定します。本装置はこの指定で得られるネットワークに対してスタティックルートを指定します。

[オプション設定]

DHCP サーバ機能

DHCP サーバ機能を使用するかどうかを選択します。

DNS サーバ広報

必要に応じて接続先、またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを指定します。指定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略、または0.0.0.0を指定する場合は、広報を行いません。

無通信監視タイマ

ISDN回線の無通信監視タイマを0～3600秒の範囲で指定します。その時間を超えても、通信が行われない場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を指定した場合は、自動切断を行いません。

課金単位時間

課金単位時間を0.0～3600.0秒の範囲で指定します。ここで指定する時間は無通信監視による回線切断のときに参照され、同一料金で最大の接続時間を得よう回線切断タイミングを調整します。なお、0を指定した場合は、課金単位の調整を行いません。

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

接続先名

接続先を識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

MP

MP 接続をするかどうかを選択します。“自動”の場合は、データ通信量に応じて適宜増減します。“手動”の場合は、「操作メニュー」の「手動チャンネル増加」「手動チャンネル減少」を用いてチャンネルの増減を行います。

ヘッダ圧縮

送受信するヘッダを圧縮します。ヘッダ圧縮のアルゴリズムは、VJヘッダ圧縮（RFC1144に準拠）およびIPヘッダ圧縮（RFC2507 / RFC2508に準拠）をサポートします。使用する指定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

データ圧縮

送受信するデータを圧縮します。データ圧縮のアルゴリズムは、LZSをサポートします。使用する指定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

かんたん設定（オフィスへ専用線接続）

かんたん設定（オフィスへ専用線接続）

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定]

Si-R130のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
Si-R130のネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192 . 168 . 2 . 1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線速度	☐ 64Kbps ☒ 128Kbps

[オプション設定]

接続ネットワーク名	localnet
DHCPサーバ機能	☐ 使用しない ☒ 使用する DNSサーバ広報 192 . 168 . 1 . 1
ヘッダ圧縮	☒ VJ ☐ IPヘッダ圧縮
データ圧縮	☐ LZS

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

[必須設定]

Si-R130のIPアドレス/ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを指定します。マルチNATを使用する場合は、ローカルなIPアドレス、使用しない場合は、プロバイダから割り当てられたIPアドレスを指定します。IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

相手ルータのIPアドレス/ネットマスク

相手ルータのIPアドレスとネットマスクを指定します。本装置は、この指定で得られるネットワークに対してスタティックルートを指定します。

使用する回線速度

使用する回線速度を選択します。

[オプション設定]

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

DHCP サーバ機能

DHCP サーバ機能を使用するかどうかを指定します。

DNS サーバ広報

必要に応じて接続先、またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを指定します。指定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略、または0.0.0.0を指定する場合は、広報を行いません。

ヘッダ圧縮

送受信するヘッダを圧縮します。ヘッダ圧縮のアルゴリズムは、VJヘッダ圧縮（RFC1144に準拠）およびIPヘッダ圧縮（RFC2507 / RFC2508に準拠）をサポートします。使用する指定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

データ圧縮

送受信するデータを圧縮します。データ圧縮のアルゴリズムは、LZSをサポートします。使用する指定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

かんたん設定 (オフィスヘフレームリレー接続)

かんたん設定(オフィスヘフレームリレー接続)

⚠ 詳細設定で設定した情報は全て無効になります。

[必須設定] **FR** 

Si-R130のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
Si-R130のネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192 . 168 . 2 . 1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線速度	☐ 64Kbps ☒ 128Kbps
DLCI	16
CIR	32Kbps

[オプション設定] **FR** 

接続ネットワーク名

DHCPサーバ機能 ☐ 使用しない ☒ 使用する

DNSサーバ広報

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[必須設定]

Si-R130のIPアドレス/ネットマスク

本装置のIPアドレスとネットマスクを指定します。0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

相手ルータのIPアドレス/ネットマスク

相手ルータのIPアドレスとネットマスクを指定します。本装置は、この指定で得られるネットワークに対してスタティックルートを指定します。

使用する回線速度

使用する回線速度を選択します。

DLCI

DLCIを16～991の範囲で指定します。DLCIを指定できるネットワークは32個までです。DLCIはフレームリレーを使用するときに、一本の物理回線上に設定される複数の論理的な通信路（データリンク）を識別する識別子です。

CIR

CIRを指定します。CIRは網が正常な状態で保証されるスループットです。本装置が輻輳制御動作を行う場合は、CIRを基準としてスループットを制御します。

[オプション設定]

接続ネットワーク名

ネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

DHCP サーバ機能

DHCP サーバ機能を使用するかどうかを指定します。

DNS サーバ広報

必要に応じて接続先、またはネットワーク管理者に指示されたDNSサーバのIPアドレスを指定します。指定する値はDHCPサーバ機能により広報されます。省略するか、0.0.0.0を指定した場合は、広報を行いません。

かんたん設定（アナログポート）

かんたん設定（アナログポート） **ISDN**



アナログポート1	接続機器	☒ 電話 ☐ なし
	ナンバー・ディスプレイ	☐ 使用する ☒ 使用しない
アナログポート2	接続機器	☒ 電話 ☐ なし
	ナンバー・ディスプレイ	☐ 使用する ☒ 使用しない

“かんたん設定”では設定を終了すると、すぐに設定が反映されます。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

接続機器

アナログポートに電話を接続するかどうかを指定します。

ナンバー・ディスプレイ

ナンバー・ディスプレイ対応機器を使用するかどうかを指定します。

「詳細設定」で設定する

「かんたん設定」の場合とは異なり、「詳細設定」では設定項目を個別に設定し、各項目を組み合わせて通信できる状態にします。詳細設定メニューでは、「ルータ設定」および「アナログ設定」の設定が行えます。

こんな事に気をつけて

- 「詳細設定」だけで設定する場合、「回線情報」「LAN情報」「相手情報」は必ず設定します。
- 「詳細設定」で設定したあとで「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報は有効です。

「詳細設定」で設定する場合は、更新する内容により、再起動が必要となる場合があります。ただし、複数のページで設定が必要な場合、それぞれのページで設定した情報を[更新]ボタンをクリックして更新しておき、最後に[再起動]ボタン、または[設定反映]ボタンをクリックすると設定したすべての内容が有効になります。

再起動が必要な場合は、[再起動]ボタンが表示され、再起動なしに設定情報を反映できる場合は、[設定反映]ボタンが表示されます。

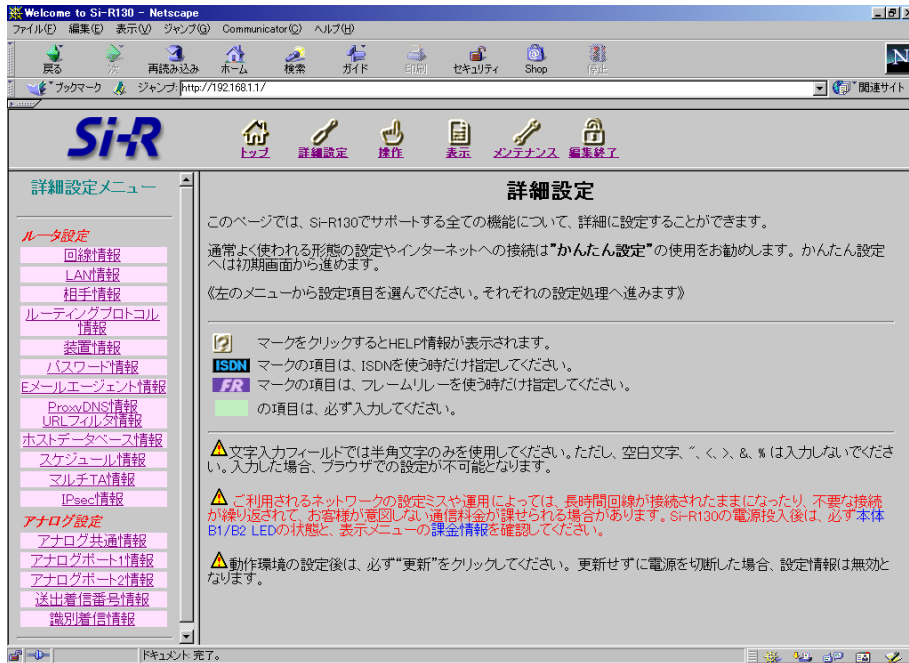
どちらのボタンが必要かについては、更新情報により、ブラウザ画面に必要なボタンが表示されますので、メッセージに従って処理を進めます。

なお、クリックするボタンにより、本装置は以下のように動作します。

- [再起動] ボタン : 通話中やデータ通信中の場合、通話およびデータ通信は切断されます。
- [設定反映] ボタン : 通話中やデータ通信中の場合、通話は切断されません。データ通信は切断されます。ただし、マルチTA機能を利用したデータ通信は切断されません。

■ 詳細設定メニューを表示する

本装置のトップページで画面上部の [詳細設定] アイコンをクリックすると、詳細設定メニューが表示されます。



回線情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「回線情報」

回線情報設定	
回線情報	ISDN情報
回線情報 ISDN情報 フレームリレー情報	
回線情報 ISDN情報 フレームリレー情報	
回線インターフェース	☒ ISDN ☐ HSD(64Kbps) ☐ HSD(128Kbps) ☐ フレームリレー(64Kbps) ☐ フレームリレー(128Kbps)
ISDN情報 ISDN	
自動ダイヤル	☐ すべて禁止 ☒ 相手毎に設定
着信動作	☐ すべて禁止 ☒ 相手毎に設定
自局番号チェック	☒ しない ☐ する
	チェックする番号1 電話番号を指定 サブアドレス
	チェックする番号2 電話番号を指定 サブアドレス
	グローバル着信 ☒ 利用する ☐ 利用しない
発信者番号通知	☒ 網契約に従う ☐ しない ☐ する 通知する電話番号 通知するサブアドレス
回線接続保持タイム	2 時間
課金制御	☐ しない ☒ する
	時間 上限時間 0 日
	制御動作 ☒ 発信抑止 ☐ システムログ出力のみ
	金額 上限金額 3000 円
	制御動作 ☒ 発信抑止 ☐ システムログ出力のみ

4

[フレームリレー情報] **FR** 

PVC状態確認手順	☒ 使用する ☐ 使用しない
CLLMメッセージ	☒ 使用する ☐ 使用しない
輻轉通知ビット	☒ FECN ☒ BECN

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合は キャンセルをクリックしてください。

[回線情報]

使用する回線の種類を設定します。

回線インタフェース

以下の5つから使用する回線を選択します。

ISDN

INS ネット 64 などの ISDN 接続の場合に選択します。

HSD (64Kbps)

ハイ・スーパー・デジタル (HSD) や DA64 などの専用線の場合に選択します。

HSD (128Kbps)

ハイ・スーパー・デジタル (HSD) や DA128 などの OCN エコノミーや専用線の場合に選択します。

フレームリレー (64Kbps)

64Kbps のアクセス回線でフレームリレーを使用する場合に選択します。

フレームリレー (128Kbps)

128Kbps のアクセス回線でフレームリレーを使用する場合に選択します。

[ISDN 情報]

ISDN を選択する場合だけ、以下の項目を設定します。

自動ダイヤル

データ通信が発生したときに自動的にダイヤルするかどうかを選択します。本装置からの自動ダイヤルを禁止するときに “すべて禁止” を選択します。いかなる通信データ発生時にも自動的にダイヤルしません。“相手毎に設定” を選択した場合は、相手情報のネットワーク情報設定で対象を設定します。

着信動作

外から本装置に着信を要求してきたときの動作を選択します。着信を装置全体として禁止するときは“すべて禁止”を選択します。データ通信の着信をすべて拒否し、発信専用となります。“相手毎に設定”を選択した場合は、相手情報のネットワーク情報の接続先情報設定で設定します。

自局番号チェック

ダイヤルイン番号や i・ナンバー、サブアドレスを利用して着信機器を識別するかどうかを選択します。識別する場合は、“する”を選択します。チェックする番号は2つまで指定でき、以下の中から選択します。

- ・電話番号を指定
- ・i・ナンバー情報1(契約者回線番号)
- ・i・ナンバー情報2(追加の番号)
- ・i・ナンバー情報3(追加の番号)

“電話番号を指定”を選択する場合、右の記入欄に電話番号を32桁以内で指定します。

また、どれを選択する場合もサブアドレスを19桁以内で指定します。

“電話番号を指定”を選択し、右の記入欄に電話番号を記述しないで、サブアドレスだけを指定する場合、電話番号は任意となります。

グローバル着信を行う場合は、“利用する”を選択します。

☞ 参照 「ダイヤルイン/グローバル着信機能を使う」(P.391)

発信者番号通知

発信者番号通知の内容を変更する場合に設定します。通常は“網契約に従う”の状態です。問題ありません。この場合、回線の加入契約で選択した内容の設定になります。“する”を選択する場合は、通知する電話番号とサブアドレスを指定します。電話番号を32桁以内、サブアドレスを19桁以内で指定します。なお、PIAFS(64Kbps)発信時には、指定したサブアドレスは無視され、相手に通知されません。

回線接続保持タイマ

回線接続保持タイマは、操作メニューでテレホーダイ開始をクリックと有効になります。無通信監視タイマによる切断を無効とする時間を0～24時間の範囲で指定します。通信時間監視タイマを指定した時刻から指定時間が経過するまでの間、無通信状態が続いても、無通信監視タイマによる切断は行われません。

課金制御

通信総時間と課金合計金額による自動発信制限を行うかどうかを選択します。“する”を選択した場合は、時間による制御と課金による制御が行え、両方を同時に使うこともできます。上限時間は0～999時間、上限金額は0～999999円の範囲で指定します。なお、0、または空白を指定する場合は、その機能は無効となります。

[フレームリレー情報]

フレームリレーを選択する場合だけ、以下の項目を設定します。

PVC 状態確認手順

PVC 状態確認手順を使用するかどうかを選択します。PVC 状態確認手順には以下の機能があります。

- ・ ユーザ - 網間のリンクの正常性を確認する機能
- ・ ユーザ - ユーザ間のPVC 状態を通知する機能

⚠注意

- ・ この機能を使用する場合は、通信事業者と契約する必要があります。
 - ・ PVC 状態確認手順の双方向手順はサポートしておりません。
-

CLLM メッセージ

CLLM メッセージ受信時に輻輳制御を行うかどうかを選択します。CLLMメッセージとは網が網状態（輻輳、故障）を通知するメッセージです。本装置はこの通知内容に合わせて動作します。

⚠注意

- ・ この機能を使用する場合は、通信事業者と契約する必要があります。
-

輻輳通知ビット

輻輳制御に利用するビットを指定します。指定したビットがセットされたパケットを受信した場合、本装置は網を正常な状態に戻すためにパケットの送信を抑制します。

LAN 情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「LAN 情報」

LAN情報設定

[IP関連]

IPアドレス	セカンダリIPアドレス	ダイナミックルーティング
スタティックルーティング	DHCP	

[IPv6関連]

IPv6基本情報	IPv6ダイナミックルーティング	IPv6スタティックルーティング
----------	------------------	------------------

[ブリッジ関連]

ブリッジ情報

[その他]

VRRP	VRRPグループ情報一覧
------	--------------

[IPアドレス]

IPアドレス	192.168.1.1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス+オール1

※DHCP 機能使用時、IPアドレスを変更する場合は DHCP 機能の“割当て先頭アドレス”も確認してください。

[セカンダリIPアドレス]

IPアドレス	
ネットマスク	2 (192.0.0.0)
ブロードキャストアドレス	0.0.0.0

[ダイナミックルーティング機能]

RIP送信	☒ 送信しない ☐ V1で送信する ☐ V2で送信する ☐ V2(Multicast)で送信する
RIP受信	☒ 受信しない ☐ V1で受信する ☐ V2、V2(Multicast)で受信する
《RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》	
メトリック値	0
《RIP V2使用時で認証/パケットを破棄しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》	
認証/パケット	☐ 破棄する ☒ 破棄しない パスワード:

[スタティックルーティング情報一覧]

宛先IPアドレス	宛先アドレスマスク	中継ルータアドレス	メトリック値	優先度	修正/削除
追加 全削除					

?

[DHCP機能]

DHCP機能

☒ 使用しない
☐ リレー機能を使用する

DHCPサーバIPアドレス1

DHCPサーバIPアドレス2

☐ サーバ機能を使用する

割当て先頭IPアドレス

割当てアドレス数

リース期間

日

デフォルトルータ広報

DNSサーバ広報

セカンダリDNSサーバ広報

ドメイン名広報

※“割当て先頭アドレス”がSi-R130のIPアドレスと同じネットワークアドレス内であることを確認してください。

?

[IPv6基本情報]

IPv6

☒ 使用する ☐ 使用しない

インタフェースID

☒ 自動
☐ 指定する

IPv6アドレス

アドレスまたはプレフィックス	Valid Lifetime		Pref. Lifetime		フラグ
	期限有	無期限	期限有	無期限	
	30	日	7	日	c0
	30	日	7	日	c0
	30	日	7	日	c0
	30	日	7	日	c0

ルータ広報

☒ 送信しない
☐ 送信する

最大送信間隔	600	秒
最小送信間隔	200	秒
Router Lifetime	1800	秒
MTU		
Reachable Time	0	ミリ秒
Retrans Timer	0	ミリ秒
Cur Hop Limit	64	
フラグ	00	

202 LAN 情報設定

IPv6ダイナミックルーティング機能

RIPng送信

☒ 送信しない
☐ 送信する

メトリック値 0

RIPng受信

☒ 受信しない ☐ 受信する

サイトローカルプレフィックス

☒ 交換しない ☐ 交換する

経路集約

集約経路

破棄経路設定

☒ デフォルトルート
☒ ネットワーク指定

☒ 設定する
☒ 設定する
☒ 設定する
☒ 設定する

IPv6スタティックルーティング情報一覧

宛先ネットワークアドレス/プレフィックス長

中継ルータアドレス

メトリック値

修正/削除

追加

全削除

ブリッジ情報

STP機能

☒ 使用しない
☐ 使用する

バスコスト

☒ 自動決定
☐ 指定する

インタフェース優先度

128

VRRP情報

VRRP機能

☒ 使用しない ☐ 使用する

パスワード

VRRPグループ情報一覧

グループID

プライオリティ

AD送信間隔

プリエンプトモード

修正/削除

修正

削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

4

LAN情報設定 203

[IP アドレス]

本装置のIPアドレスを設定します。

IP アドレス / ネットマスク

本装置のLAN側のIPアドレスとネットマスクを指定します。



注意 IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

ブロードキャストアドレス

本装置のLAN側のブロードキャストアドレスを以下の中から選択します。

- 0.0.0.0
- 255.255.255.255
- ネットワークアドレスのホスト部をオール0にしたもの
- ネットワークアドレスのホスト部をオール1にしたもの

通常は“ネットワークアドレス + オール1”から変更する必要はありません。

[セカンダリIPアドレス]

本装置はLAN側に複数のIPアドレスを持つことができます。複数のIPアドレスを使用する場合に設定します。



注意 セカンダリIPアドレスの属するネットワークには、以下のサービスを行いません。

- RIPの送受信
 - DHCP機能
-

[ダイナミックルーティング機能]

ダイナミックルーティングを行うためのルーティング情報を設定します。

本装置がサポートしているダイナミックルーティング機能はRIPとBGPです。RIPを使用する場合は、各インタフェース単位で設定する必要があります。BGPを使用する場合は、「ルーティングプロトコル情報設定」(P.275)を参考にしてください。

RIP 送信

RIP情報を送信するかどうかを選択します。送信する設定にした場合、15～45秒ごとにRIP情報を送信します。RIP送信を行う場合は、RIPの種類を選択します。

- V1

ルーティングプロトコルにRIP V1を使用し、ブロードキャストで送信します。

- V2
ルーティングプロトコルに RIP V2 を使用し、ブロードキャストで送信します。
- V2 (Multicast)
ルーティングプロトコルに RIP V2 を使用し、マルチキャストで送信します。

RIP 受信

RIP 情報を受信するかどうかを選択します。RIP 受信を行う場合は、RIP の種類を選択します。

- V1
ルーティングプロトコルに RIP V1 を使用し、受信します。
- V2、V2 (Multicast)
ルーティングプロトコルに RIP V2 を使用し、ブロードキャストおよびマルチキャストを受信します。

メトリック値

RIP 送信時に加算するメトリック値を選択します。

認証バケット

RIP V2 使用時にだけ有効な設定です。RIP V2 では、同一パスワードグループでだけ、RIP 情報の交換を行うことができます。パスワード認証による RIP 情報の交換を行う場合は、“ 破棄しない ” を選択し、パスワードを半角英数字 16 文字以内で指定します。“ 破棄する ” を選択する場合は、パスワード認証による RIP 情報の交換は行いません。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在 LAN 側に設定されているスタティックルーティング情報の一覧です。スタティックルーティングの定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。



ヒント

ダイナミックルーティングとスタティックルーティング

スタティックルーティングとは、目的とする接続先へ到達するまでのルートをあらかじめ設定しておき、常に固定的なルートを選択してデータ通信を行います。それに対して、ダイナミックルーティングはルータ間でルーティング情報をやりとりすることで、そのつどネットワークに応じて最適なルートを選択してデータ通信を行うものです。

[DHCP 機能]

DHCP 機能

本装置を LAN 側ネットワークの DHCP サーバとして使用するかどうかを選択します。使用する場合は、“サーバ機能を使用する”を選択し、以下の項目を設定します。また、他のネットワークに置いてある DHCP サーバを、本装置のネットワークの DHCP サーバとして使用する場合は、“リレー機能を使用する”を選択し、利用する DHCP サーバの IP アドレスを指定します。

割当て先頭 IP アドレス

DHCP サーバ機能により、割り当てる連続したアドレス群の先頭の IP アドレスを指定します。

割当てアドレス数

DHCP サーバ機能で割り当てるアドレス数を 1 ～ 64 の範囲で指定します。

⚠注意

なお、ホストデータベース機能を使用すると特定の DHCP クライアントに対して固有の IP アドレスを割り当てることができます。この場合の IP アドレスは、割当て先頭 IP アドレスと割当てアドレス数によって規定される動的割り当て範囲である必要はありません。

リース期間

DHCP サーバ機能により割り当てた IP アドレスを貸し出す期間を、1 時間以上、365 日未満の範囲で指定します。0 を指定すると無期限を意味します。

デフォルトルータ広報

DHCP サーバで広報するデフォルトルータの IP アドレスを指定します。省略、または 0.0.0.0 を指定する場合は、DHCP サーバによる広報を行いません。

DNS サーバ広報

DNS サーバの IP アドレスを指定します。省略、または 0.0.0.0 を指定する場合は、DHCP サーバによる広報を行いません。ProxyDNS を使用する場合は、本装置の IP アドレスを指定します。

セカンダリ DNS サーバ広報

セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。省略、または 0.0.0.0 を指定する場合は、DHCP サーバによる広報を行いません。

広報ドメイン名

ドメイン名を半角英数字 80 文字以内で指定します。省略する場合は、DHCP サーバによる広報を行いません。

[IPv6 基本情報]

IPv6

LAN上でIPv6通信を使用するかどうかを選択します。

インタフェースID

“自動”を選択する場合は、装置のMACアドレスから自動生成されるインタフェースIDを使用します。通常はこの設定を使用します。

“指定する”を選択する場合は、16ビットごとに区切り文字(:)を入れて、16桁の16進数でインタフェースIDを指定します。このとき、他の装置と違うインタフェースIDを指定します。

記述例)

fedc:ba98:7654:3210

IPv6 アドレス

本装置のLAN側のIPv6アドレスを標準的なIPv6アドレスで指定します。本装置ではprefix lengthは64に固定されます。インタフェースID部分がすべて0の場合は、指定するアドレスはprefixとして解釈されます。実際に利用するアドレスは、そのアドレスにインタフェースIDを付与したものとなります。

記述例)

fec0::1000:200:fffc:1111:1111

完全なIPv6アドレスとして解釈されます。

fec0:0:0:1000::

prefixとして解釈され、インタフェースID部分にはインタフェースIDが付与されます。

Valid Lifetime

通常は奨励値“30日”を使用します。

有効範囲)

0 ~ 365日

0 ~ 8760時

0 ~ 525600分

0 ~ 31536000秒

期限を定めない(無期限)の場合は、チェックボックスをチェックします。

Pref. Lifetime

通常は奨励値“7日”を使用します。

有効範囲)

0 ~ 365日

0 ~ 8760時

0 ~ 525600 分

0 ~ 31536000 秒

期限を定めない（無期限）の場合は、チェックボックスをチェックします。

フラグ

ルータ広報のプレフィックス情報ごとに設定するフラグフィールドの内容を2桁の16進数で指定します。この領域の値として、RFC2461 で以下の値が定義されています。必要に応じて以下の値の論理和を設定してください。

- on-link flag 80
- autonomous address-configuration flag 40

特に問題がない場合は“c0”を使用します。

ルータ広報

ルータ広報メッセージ（router advertisement message）を送信する場合は“送信する”を選択し、以下の項目を設定します。

最大送信間隔

ルータ広報メッセージの最大送信間隔を指定します。

有効範囲）4 ~ 1800

最小送信間隔

ルータ広報メッセージの最小送信間隔を指定します。

有効範囲）3 ~ 最大送信間隔の3/4

Router Lifetime

ルータ広報で送信する Router Lifetime の内容を指定します。

有効範囲）0 または最大送信間隔 ~ 9000

MTU

ルータ広報で送信する MTU option の内容を指定します。無指定の場合には MTU option を含めません。

有効範囲）1280 ~ 1500

Reachable Time

ルータ広報で送信する Reachable Time の内容を指定します。

有効範囲）0 ~ 3600000

Retrans Timer

ルータ広報で送信する Retrans Timer の内容を指定します。

有効範囲）0 ~ 4294967295

Cur Hop Limit

ルータ広報で送信する Cur Hop Limit の内容を指定します。

有効範囲) 0 ~ 255

フラグ

ルータ広報の本体部分に設定するフラグフィールドの内容を2桁の16進数値で指定します。この領域の値として、RFC2461 で以下の値が定義されています。必要に応じて以下の値の論理和を設定してください。

- Managed address configuration flag 80
- Other stateful configuration flag 40

[IPv6 ダイナミックルーティング機能]

RIPng 送信

RIPng 送信を行うかどうかを選択します。

メトリック値

加算するメトリック値を選択します。“RIPng 送信する”を選択した場合だけ有効です。

RIPng 受信

RIPng 受信を行うかどうかを選択します。

サイトローカルプレフィックス

サイトローカルプレフィックスを交換するかどうかを選択します。

経路集約

RIPng で集約経路を送信する場合に、集約して広報する経路を設定します。

集約経路

デフォルトルートまたはネットワーク指定を選択し、集約して広報する経路を指定します。

破棄経路設定

集約経路に対する破棄経路を設定するかどうかを選択します。破棄経路を設定すると、転送先にこの経路を選択したパケットは破棄され、パケット送信元に ICMPv6 エラーメッセージが送信されます。

[IPv6 スタティックルーティング情報一覧]

現在 LAN 側に設定されている IPv6 のスタティックルーティング情報の一覧です。IPv6 スタティックルーティングの定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[ブリッジ情報]

相手情報でSTP機能を有効に設定するネットワーク情報がない場合は、STP機能は動作しません。

STP 機能

STP機能を利用して経路制御を行うかどうかを選択します。行う場合は、“使用する”を選択して、以下の項目を指定します。

パスコスト

STPで使用するパスコストを選択します。“指定する”を選択する場合は、1～65535の範囲で指定します。パスコストの適性値が不明な場合は、“自動決定”を選択すると、自動的にパスコストが決定されます。

インタフェース優先度

STPで使用するインタフェースごとの優先度を0～255の範囲で指定します。値が小さい方が優先となります。

[VRRP 情報]

VRRP 機能

VRRPを使用するかどうかを選択します。VRRPを使用するとルータの冗長構成を組むことができます。VRRPを使用しない場合は、以下の設定は無効です。

パスワード

マスタから送信されるAdvertisementパケットに、認証情報を含める場合に設定します。インタフェースから送信される、すべてのAdvertisementパケットに適用します。

[VRRP グループ情報一覧]

現在このインタフェースに設定されているVRRPグループ情報の一覧です。VRRPグループは、インタフェースに2個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

ルーティング情報設定 (LAN 情報)

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「LAN 情報」→[スタティックルーティング情報一覧]

ルーティング情報設定

?

ネットワーク	☐ デフォルトルート	中継ルータアドレス	
	☒ ネットワーク指定	宛先IPアドレス	
		宛先アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
		中継ルータアドレス	
	メトリック値	1	
	優先度	0	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

このページでは、ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

ネットワーク

デフォルトルート、またはネットワーク指定を選択し、宛先および中継先のネットワークを指定します。ネットワーク指定は、指定するネットワークを宛先に持つパケットの転送先を指定するもの、デフォルトルートは、ネットワーク指定されていない宛先をもつパケットの転送先を指定するものです。

メトリック値

メトリック値を選択します。これは、ここで設定するルーティング情報を RIP で送信するときに加算されます。

優先度

ここで設定したルーティング情報の優先度を 0 ~ 254 の範囲で指定します。省略時は 0 が設定されます。優先度は小さい値がより高い優先度を示します。指定した優先度はルーティングプロトコルの経路情報の優先度と比較され、優先度の高い経路が使用されます。

ルーティングプロトコルの優先度のデフォルトは以下のとおりです。ルーティングプロトコルに設定されている優先度と同じ値は設定しないでください。

BGP : 20

RIP : 120

IPv6 ルーティング情報設定（LAN 情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「LAN 情報」→[IPv6 スタティックルーティング情報一覧]

IPv6ルーティング情報設定

ネットワーク

☐ デフォルトルート

中継ルータアドレス

☒ ネットワーク指定

宛先ネットワーク/プレフィックス

中継ルータアドレス

メトリック値 1

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックして下さい。

更新 キャンセル

このページでは、IPv6 ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

ネットワーク

デフォルトルートまたはネットワーク指定を選択し、宛先および中継先のネットワークを指定します。ネットワーク指定は、指定するネットワークを宛先に持つパケットの転送先を指定するもの、デフォルトルートは、ネットワーク指定されていない宛先をもつパケットの転送先を指定するものです。

なお、ICMPv6 Redirect を正常に動作させるために、中継ルータアドレスはリンクローカルアドレスで設定する必要があります。

メトリック値

メトリック値を選択します。これは、ここで設定するルーティング情報を RIPng で送信するときに加算されます。

VRRP グループ情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「LAN 情報」→ [VRRP グループ情報一覧]

VRRPグループ情報設定

[基本情報](#)
[VRRPトリガ情報一覧](#)

[基本情報]

グループID

プライオリティ

☒ マスタ(255)

☐ バックアップ

優先度

仮想IPアドレス

AD送信間隔

1 秒

プリエンプトモード

☒ ON

☐ OFF

OFF抑止時間

0 秒

[トリガ情報一覧]

トリガ種別	減算プライオリティ	インタフェース	宛先IPアドレス	修正／削除
追加 全削除				

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

設定する VRRP グループのメンバとして動作します。

[基本情報]

グループID

VRRP グループのグループ ID を 1 ~ 255 の範囲で指定します。VRRP グループは、指定したグループ ID で識別（グループ化）されます。グループ ID は、装置内で重複しないように指定してください。

プライオリティ

マスタまたはバックアップを選択します。“マスタ”を選択した場合は、プライオリティが 255 の VRRP グループメンバとして動作します。また、仮想 IP は、このインタフェースの IP

アドレスとなります。“バックアップ”を選択した場合は、以下の項目を指定します。VRRPグループ内で、プライオリティが1番高いVRRPグループメンバがマスタとなります。プライオリティは、数値が大きいほど高くなります。プライオリティは、なるべくVRRPグループ内で差をつけてください。トリガを使用する場合は、プライオリティに1を指定しないでください。また、トリガを使用する場合は、“バックアップ”を選択してください。“マスタ”を選択すると、該当グループがバックアップ状態となった場合にVRRPを設定したLANが通信できなくなります。グループ内で最も優先度が高いグループがマスタになります。

優先度

プライオリティを1～254の範囲で指定します。

仮想IPアドレス

VRRPグループ内では、同じ仮想IPアドレスを指定します。VRRPグループ内にマスタを設定されたVRRPグループメンバが存在する場合は、その設定されたインタフェースのIPアドレスを指定します。自装置のインタフェースに設定されたIPアドレスを指定しないでください。

AD 送信間隔

マスタが送信するAdvertisementパケットの送信間隔を1～254（秒）の範囲で指定します。VRRPグループ内では同じ値を使用してください。本装置とVRRPを構成する他装置にも同じ値を指定してください。省略した場合は、1秒に設定されます。

プリエンプトモード

通常は“ON”を選択することをお勧めします。

“OFF”を選択した場合、自装置VRRPグループメンバの優先度が高くても、マスタである他装置のVRRPグループメンバがすでに存在すると、マスタになることはできません。

“OFF”の選択は、ネットワークの状態が不安定で、マスタの交替が頻繁に発生する場合に有効です。OFF抑止時間（秒）は、システムの立ち上がりからプリエンプトモードOFF状態を抑止する時間です。マスタより先にバックアップのシステムが立ち上がり、本来マスタになるべきVRRPグループに制御が移らないのを防ぎます。0～900（秒）の範囲で指定します。省略した場合は、0秒に設定されます。

[トリガ情報一覧]

現在このVRRPグループメンバに設定されているトリガ情報の一覧です。VRRPトリガの定義は装置全体で50個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

VRRP トリガ情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「LAN 情報」→[VRRP グループ情報一覧]→
[トリガ情報一覧]

VRRPトリガ情報設定

減算プライオリティ

トリガ種別

☒ インタフェースダウントリガ(ifdown)
 インタフェース

☐ 特定ノードダウントリガ(node)
 宛先IPアドレス
 送出インタフェース

再送間隔 秒

タイムアウト時間 秒

正常時送信間隔 秒

異常時送信間隔 秒

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定した条件が発生した場合に、該当する VRRP グループメンバの優先度を下げます。条件に当てはまるすべてのトリガが適用されます。このインタフェースに異常が発生しない限り、減算されるプライオリティの最大は1です。

減算プライオリティ

設定した条件が発生した場合、「VRRP グループ情報設定」で設定したプライオリティを減算する値を 1 ~ 254 の範囲で指定します（プライオリティ 1 より低い値までは減算されません）。省略した場合は、254秒に設定されます。

トリガ種別

トリガとなる種別を選択します。

インタフェースダウントリガ（ifdown）

指定されたインタフェースがダウンした場合にトリガを適用します。有効ではないインタフェースは動作上、無視されます。

インタフェース

トリガの対象となるインタフェースを選択します。“すべて”を選択した場合は、有効なすべてのインタフェースが対象です。

特定ノードダウントリガ (node)

設定したノードに対してICMP ECHOパケットを送信します。応答がタイムアウトした場合にはトリガを適用します。ICMP ECHOパケットの送信元IPアドレスは、VRRPが設定されたLANインタフェースのIPアドレスとなります。応答を受診するための経路情報が正しくない場合は、不当に異常を検出することがあります。

宛先IPアドレス

ICMP ECHOパケットの送出先IPアドレスを指定します。

送出インタフェース

ICMP ECHOパケットを送出するインタフェースを指定します。“指定なし”の場合は送出時の経路情報によって決定されます。

再送間隔

ICMP ECHOパケットの応答が受信されない場合に、再送する時間を1～60（秒）の範囲で指定します。送信から指定した再送間隔まで応答がない場合に、ICMP ECHOパケットを再送します。省略した場合は、5秒に設定されます。

タイムアウト時間

ICMP ECHOパケットの再送を繰り返しても応答が受信されず、タイムアウトするまでの時間を、[再送間隔+1]～240（秒）の範囲で指定します。タイムアウトによって、トリガが適用されます。省略した場合は、再送間隔×3+1秒に設定されます。

正常時送信間隔

ICMP ECHOパケットの応答が正常に受信されている状態で、次にICMP ECHOパケットを送信する時間を、[タイムアウト時間+1]～255（秒）の範囲で指定します。正常に受信されている状態での周期送信間隔です。省略した場合は、タイムアウト時間+1秒に設定されます。

異常時送信間隔

ICMP ECHOパケットのタイムアウトが発生してから応答が受信されるまでの、周期送信する間隔を1～255（秒）の範囲で指定します。応答が受信された場合は、トリガを適用せずに正常状態に戻ります。省略した場合は、30秒に設定されます。

こんな事に気をつけて

特定ノードダウントリガ機能を使用する場合は、本装置から宛先IPアドレスに対してICMP ECHOパケットを定期的に出します。そのため、定額制でない回線を使用している場合は、超過課金の原因となることがあります。このような環境では、特定ノードダウントリガ機能を使用しないでください。

相手情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」

相手情報設定

ネットワーク情報 着信相手識別情報 **RADIUS情報**
受諾認証ID情報

《接続するネットワークの情報を設定します。接続できるネットワークは48個までです》
《相手の電話番号を特定せずにパソコンからの着信のみを行いたい場合は不特定相手の設定を行ってください》

[ネットワーク情報一覧]



ネットワーク	プロトコル	接続先	修正／削除
不特定相手着信	-		修正
ISDN			
追加		全削除	

《着信相手識別情報は着信相手のネットワークを特定するための情報を設定します》
《発信者番号によって相手を特定した場合には参照されません》

[着信相手識別情報] **ISDN**



着信許可	☒ する ☐ しない
認証方式	☒ PAP ☒ CHAP
MP接続	☐ しない
	☐ する
	BAP/BACP利用 ☐ する ☐ しない
コールバック応答	☐ する ☐ しない

[RADIUS情報] (不特定相手着信時に有効) **ISDN**



RADIUS機能	☒ 使用しない ※受諾認証ID情報が使用されます。								
	☐ 使用する								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用サービス</th> <th>☐ 認証 ☐ 課金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認証サーバIPアドレス</td> <td> . . . </td> </tr> <tr> <td>課金サーバIPアドレス</td> <td> . . . </td> </tr> <tr> <td>シークレット</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	利用サービス	☐ 認証 ☐ 課金	認証サーバIPアドレス	. . .	課金サーバIPアドレス	. . .	シークレット	
	利用サービス	☐ 認証 ☐ 課金							
	認証サーバIPアドレス	. . .							
課金サーバIPアドレス	. . .								
シークレット									

[受諾認証ID情報一覧] **ISDN**



認証ID	修正／削除
追加 全削除	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新	キャンセル
----	-------

[ネットワーク情報一覧]

接続相手のネットワーク情報の一覧です。ネットワークの定義は48個まで設定できます。
処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

「不特定相手着信」欄の[修正] ボタンをクリックすると、「不特定相手情報設定」ページに進みます。

[着信相手識別情報]

発信者番号で識別されない相手から着信がある場合に利用する情報です。

着信許可

発信者番号で識別されない相手からの着信を許可するかどうかを選択します。

認証方式

着信時に利用する認証プロトコルを選択します。どちらのプロトコルも選択しない場合は、認証を行いません。

MP 接続

着信時にMP接続を受け付けるかどうかを選択します。“ する ” を選択する場合は、BAP / BACP の利用可否も選択します。

コールバック応答

着信時にコールバック応答を行うかどうかを選択します。

[RADIUS 情報]

RADIUS 情報

不特定相手着信の場合だけRADIUSクライアント機能を使用できます。RADIUSサーバに認証を問い合わせたり、課金情報を通知します。“ 使用しない ” を選択する場合は、[受諾認証ID情報一覧] で表示される情報をもとに認証を行います。“ 使用する ” を選択する場合は、以下の項目を設定します。

利用サービス

RADIUS機能で利用するサービスを選択します。“ 認証 ” を選択するとRADIUS認証を行います。“ 課金 ” を選択するとRADIUS Accountingを行います。どちらも選択しない場合は、RADIUS機能は使用しません。

認証サーバIPアドレス

RADIUS認証サーバのIPアドレスを指定します。

課金サーバIPアドレス

RADIUS AccountingサーバのIPアドレスを指定します。RADIUS Accountingサーバと認証サーバが同じシステムの場合は、認証サーバと同じIPアドレスを指定します。

シークレット

RADIUS認証 / 課金サーバの間で共有するシークレット文字列を半角英数字 64文字以内で指定します。ここで指定するシークレットはサーバでも登録する必要があります。

[受諾認証ID 情報一覧]

着信時に受け付ける認証ID情報の一覧です。64個まで設定できます。ここにはないIDでも、各接続先情報の受諾認証情報に記述されているIDであれば、着信を受け付けます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

ネットワーク情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]

ネットワーク情報設定

基本情報	接続先情報	MP情報
------	-------	------

[IP関連]

IP基本情報	ダイナミックルーティング	スタティックルーティング
IPフィルタリング	TOS値書き換え	NAT情報
静的NAT情報	帯域制御(QWFQ)情報	マルチホーミング情報
静的マルチホーミング		

[IPv6関連]

IPv6基本情報	IPv6ダイナミックルーティング	IPv6スタティックルーティング
IPv6フィルタリング		

[ブリッジ関連]

ブリッジ情報	MACフィルタリング
--------	------------

[基本情報] 

ネットワーク名	
データ圧縮	☐ LZS
MTUサイズ	1500 バイト
自動ダイヤル ISDN	☐ する ☐ しない
DLCI FR	
CIR FR	32Kbps Kbps
MSS書き換え	☐ 使用しない ☐ 使用する MSS書き換え バイト
シェーピング	☐ 使用しない ☐ 使用する 最大送信レート Kbps

《接続先は、各ネットワークの合計で48箇所まで設定でき、複数のプロバイダを利用条件により切替えることができます。》

[接続先情報一覧] 

優先順位	接続先名	接続先	修正	削除	移動

追加 全削除

[MP情報] **ISDN**

MP回線初期リンク数

1

アナログ使用時縮退

☒ する ☐ しない

トラフィックによる増減

☒ しない
☐ する

	回線使用率	猶予時間
回線増加条件	90 %	10 秒
回線削減条件	40 %	60 秒

受信パケット順序制御

☐ する ☒ しない

[IP基本情報]

WAN側IPアドレス

☒ 設定しない
☐ 設定する

相手IPアドレス

自側IPアドレス

ヘッダ圧縮

☒ VJ ☐ IPヘッダ圧縮

[ダイナミックルーティング機能]

RIP送信

☒ 送信しない
☐ V1で送信する
☐ V2で送信する
☐ V2(Multicast)で送信する

RIP受信

☒ 受信しない
☐ V1で受信する
☐ V2、V2(Multicast)で受信する

《 RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》

メトリック値

0

《 RIP V2使用時に認証パケットを破棄しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》

認証パケット

☐ 破棄する
☒ 破棄しない

パスワード

[スタティックルーティング情報一覧]

宛先IPアドレス 宛先アドレスマスク メトリック値 優先度 修正／削除

追加

全削除

[IPフィルタリング情報一覧]

優先順位

動作

プロトコル

送信元IPアドレス/マスク

送信元ポート番号

宛先IPアドレス/マスク

宛先ポート番号

TCP接続要求

TOS

修正／削除／移動

追加

全削除

ネットワーク情報設定 221

[TOS値書き換え情報一覧]



優先順位	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク	TOS	修正／削除／移動
		送信元ポート番号		
		宛先IPアドレス/マスク	新TOS	
		宛先ポート番号		
		追加	全削除	

[NAT情報]



NATの使用	☒ 使用しない ☐ NAT ☐ マルチNAT
グローバルアドレス	. . .
アドレス個数	個
アドレス割当てタイマ	時間
NATセキュリティ	☐ 通常 ☒ 高い
フラグメント順序変更	☒ 使用しない ☐ 使用する

[静的NAT情報一覧](マルチNATを選択時のみ有効)



プライベートアドレス	プライベートポート番号	プロトコル	修正／削除
グローバルアドレス	グローバルポート番号		
追加		全削除	

[帯域制御(WFQ)情報一覧]



プロトコル	送信元IPアドレス／マスク	対象TOSフィールド値	修正／削除
	送信元ポート番号		
	宛先IPアドレス／マスク	帯域	
	宛先ポート番号		
追加		全削除	

[マルチホーミング情報]



マルチホーミング機能	☒ 使用しない ☐ 順次方式	
	切り分け閾値	☒ セッション数 ☐ 回線使用率 ☐ 最大回線使用速度
	☐ ラウンドロビン方式 ☐ 双方方式	
	切り分け閾値	☒ セッション数 ☐ 回線使用率 ☐ 最大回線使用速度
最大セッション数	0 セッション	
最大回線使用率	0 %	
最大回線使用速度	0 Kbps	
セッション比率(WAN側:転送側)	0 : 10	
転送先ルータIPアドレス	. . .	
セッションタイムアウト時間	5 分	
転送セッション経路監視	監視用IPアドレス	. . .
	ping実行間隔	10 秒
	障害認識無応答回数	3 回
	復旧判断応答回数	1 回
WAN側セッション経路監視	宛先IPアドレス	. . .
	再送間隔	5 秒
	タイムアウト時間	16 秒
	正常時送信間隔	17 秒
	異常時送信間隔	30 秒

[静的マルチホーミング情報一覧]



優先順位	マルチホーミング経路 障害時の経路変更	プロトコル	送信元ポート番号 宛先ポート番号	修正/削除/移動
追加 全削除				

[IPv6基本情報]				
IPv6 ☐ 使用する ☒ 使用しない				
インタフェースID	☐ 自動 ☐ 指定する 			
IPv6アドレス	アドレスまたはプレフィックス	Valid Lifetime 期限有 無期限	Pref. Lifetime 期限有 無期限	フラグ
		30 日 ☐	7 日 ☐	c0
		30 日 ☐	7 日 ☐	c0
		30 日 ☐	7 日 ☐	c0
ルータ広報	☐ 送信しない ☐ 送信する			
	最大送信間隔	600 秒		
	最小送信間隔	200 秒		
	Router Lifetime	1800 秒		
	MTU			
	Reachable Time	0 ミリ秒		
	Retrans Timer	0 ミリ秒		
	Cur Hop Limit	64		
フラグ	00			
ヘッダ圧縮	☒ IPヘッダ圧縮			
[IPv6ダイナミックルーティング機能]				
RIPng送信	☐ 送信しない ☐ 送信する メトリック値 0			
RIPng受信	☐ 受信しない ☐ 受信する			
サイトローカルプレフィックス	☐ 交換しない ☐ 交換する			
経路集約	集約経路	破棄経路設定		
	☐ デフォルトルート ☐ ネットワーク指定			
		☐	☒ 設定する	
		☐	☒ 設定する	
	☐	☒ 設定する		
	☐	☒ 設定する		

IPv6スタティックルーティング情報一覧

宛先ネットワークアドレス/プレフィックス長

中継ルータアドレス

メトリック値

修正/削除

追加 全削除

IPv6フィルタリング情報一覧

優先順位

動作

プロトコル

送信元IPv6アドレス/プレフィックス

送信元ポート番号

宛先IPv6アドレス/プレフィックス

宛先ポート番号

TCP接続要求

修正/削除/移動

追加 全削除

ブリッジ情報

ブリッジ機能

☒ 使用する
☐ 使用しない

STP機能

☐ 使用しない
☒ 使用する

パスコスト

自動決定

指定する

インタフェース優先度

128

MACフィルタリング情報一覧

優先順位

動作

送信元MACアドレス

フォーマット種別

宛先MACアドレス

LSAP/type値

修正/削除/移動

追加 全削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

4

[基本情報]

ルーティングの対象となるネットワークの情報を設定します。

ネットワーク名

このネットワークを識別する名称を半角英数字8文字以内で指定します。

データ圧縮

送受信するデータを圧縮します。データ圧縮のアルゴリズムは、LZSをサポートします。使用する指定をした場合でも、実際にデータ圧縮を行うかどうかは相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

ネットワーク情報設定 225

MTU サイズ

最大パケット送信サイズ (Maximum Transmission Unit) を 200 ~ 1500 バイトの範囲で指定します。IPv6 通信で利用する場合は、1280 バイト以上の値を指定します。

IPv6 トンネル (IPv6 over IPv4) を利用する場合は、1280 を指定します。

ブリッジ通信する場合は、1500 バイトを指定します。1500 バイト未満の MTU を指定すると、正しくブリッジ通信ができない場合があります。

RIP を利用する場合は、576 バイト以上を指定します。576 バイト未満の MTU を指定すると、RIP パケットが送信されない場合があります。

自動ダイヤル

通信データ発生時に自動的にダイヤルするかどうかを選択します。使用する場合は、通信データ発生時に自動的にダイヤルします。

⚠注意

回線情報で自動ダイヤルを“すべて禁止”としている場合は、自動ダイヤルを行いません。自動ダイヤルを行う場合は、回線情報の自動ダイヤルを“相手毎に設定”とします。

DLCI

16 ~ 991 の範囲で指定します。DLCI を設定できるネットワークは 32 個まで指定できます。

CIR

CIR を選択します。

MSS 書き換え

MSS 書き換え機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合“使用する”を選択し、書き換えサイズを 0 または 160 ~ 1460 の範囲で指定します。0 を指定する場合は MSS 書き換え機能が無効となります。

シェーピング

シェーピング機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合は、最大送信レートを 1 ~ 128 の範囲で指定します。



シェーピング機能とは、相手装置にデータを送信する際に回線速度より低い転送速度で通信する場合に使用する機能です。

本装置は回線種別が専用線（HSD）の場合だけ使用することができます。本機能を使用する場合は、以下のように設定してください。

1. 詳細設定メニューから「相手情報設定」→[ネットワーク情報一覧]でシェーピング機能を使用するネットワーク情報の[修正]ボタン（追加の場合は、[追加]ボタン）をクリックします。
2. 「基本情報」の「シェーピング」で“使用する”をチェックし、“最大送信レート”に送信する速度を1～128の範囲で設定し、[更新]ボタンをクリックします。

ただし、64Kbps専用線を使用する場合に、64～128の範囲で“最大送信レート”を設定しても、本機能は動作しませんので注意してください。

[接続先一覧]

現在設定されている接続先の情報の一覧です。マルチルーティングを行う場合は、優先順位の1から順に評価され、最初に条件が成立した接続先にデータが流れます。接続先の定義は装置全体で48個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[MP 情報]

MP（MultilinkPPP）の情報を指定します。

MP 回線初期リンク数

回線接続時に接続するチャンネル数を選択します。

アナログ使用時縮退

アナログ使用時縮退を行うかどうかを選択します。アナログ使用時縮退は、MPで2本のチャンネルを使用している時に、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話の受話器を上げたりする場合に、チャンネルを1本に減らしてアナログ機器を使用することができます。

トラフィックによる増減

回線負荷に応じて帯域幅（1B、2B）を自動的にコントロールする機能（BOD）を使用するかどうかを選択します。“する”を選択する場合は、回線増減の条件も指定します。指定した回線使用率を超える（削減の場合は下回った）状態が“猶予時間”以上続く時点で、回線の接続（削減の場合は切断）を行います。回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定します。

この機能を利用する場合は、主に発信側となる装置のBOD機能を有効にし、着信側となる装置のBOD機能を無効にしてください。発信側および着信側の両装置でBOD機能を有効にすると、両装置の仕様差により、着信側から発呼する場合があります。着信側に課金が発生する場合がありますので注意してください。なお、BAP / BACP機能をサポートする相手装置と接続する場合は、接続先情報のMP接続でBAP / BACP利用を必ず“する”にしてください。

受信パケット順序制御

MPを使用する場合は、必ず“する”をチェックします。“しない”をチェックすると、MPとヘッダ圧縮を併用する場合にヘッダ圧縮が無効になります。また、データ圧縮を使用している場合は、受信パケット順序制御の“しない”を選択すると圧縮効率が下がります。ブリッジを使用する場合は、有効にしてください。

[IP 基本情報]

WAN 側 IP アドレス

WAN 側の IP アドレスを固定で設定するかどうかを選択します。設定する場合に、“相手 IP アドレス”、または“自側 IP アドレス”の一方だけを指定し、他方を省略することもできます。なお、WAN 側で RIP を使用する場合は、どちらか一方を省略することはできません。両方とも指定するか、両方とも省略してください。BGP を使用する場合は、両方とも指定してください。

ヘッダ圧縮

送受信するパケットのヘッダ部分を圧縮します。圧縮アルゴリズムは、VJ ヘッダ圧縮 (RFC1144 に準拠) および IP ヘッダ圧縮 (圧縮方法: RFC2507 / RFC2508、ネゴシエーション方法: RFC2509 に準拠) をサポートします。使用する指定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

[ダイナミックルーティング機能]

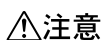
ダイナミックルーティングを行うためのルーティング情報を設定します。

本装置がサポートしているダイナミックルーティング機能は RIP と BGP です。RIP を使用する場合は、各インタフェース単位で設定する必要があります。BGP を使用する場合は、「ルーティングプロトコル情報設定」(P.275) を参考にしてください。

RIP 送信

RIP 情報を送信するかどうかを選択します。送信する設定にした場合、15 ~ 45 秒ごとに RIP 情報を送信します。RIP 送信を行う場合は、RIP の種類を選択します。

- V1
ルーティングプロトコルに RIP V1 を使用し、送信します。
WAN 側 IP アドレスの自側 IP アドレスが設定されている場合はユニキャストで、設定されていない場合はブロードキャストで送信します。
- V2
ルーティングプロトコルに RIP V2 を使用し、送信します。
WAN 側 IP アドレスの自側 IP アドレスが設定されている場合はユニキャストで、設定されていない場合はブロードキャストで送信します。
- V2 (Multicast)
ルーティングプロトコルに RIP V2 を使用し、マルチキャストで送信します。

**注意**

ISDN の場合、RIP 情報を送信すると思われ課金（定期発信、または長時間接続）が発生します。

RIP 受信

RIP 情報を受信するかどうかを選択します。RIP 受信を行う場合は、RIP の種類を選択します。

- V1
ルーティングプロトコルに RIP V1 を使用し、受信します。
- V2、V2（Multicast）
ルーティングプロトコルに RIP V2 を使用し、ブロードキャストおよびマルチキャストを受信します。

メトリック値

RIP 送信時に加算するメトリック値を選択します。

認証パケット

RIP V2 使用時にだけ有効な設定です。RIP V2 では、同一パスワードグループでだけ、RIP 情報の交換を行うことができます。パスワード認証による RIP 情報の交換を行う場合は、“破棄しない”を選択し、パスワードを半角英数字 16 文字以内で指定します。“破棄する”を選択する場合は、パスワード認証による RIP 情報の交換は行いません。

4

[スタティックルーティング情報一覧]

現在、このネットワークに設定されているスタティックルーティング情報の一覧です。スタティックルーティングの定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[IP フィルタリング情報一覧]

現在、このネットワークに設定されている IP フィルタリング情報の一覧です。処理は優先順位 1 から順に行います。IP フィルタリングの定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[TOS 値書き換え情報一覧]

現在、このネットワークに設定されている TOS 値書き換え情報の一覧です。処理は優先順位 1 から順に行います。TOS 値書き換えの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[NAT 情報]

NAT に関する情報を設定します。

NAT の使用

NAT を使用するかどうかを選択します。マルチ NAT を使うと複数の端末を同時に使用できます。NAT を使用しない場合は、以下の設定は無効です。

グローバルアドレス

特定のグローバルアドレスを使用する場合に指定します。指定しない場合は、自動で割り当てられます。

アドレス個数

複数個のグローバルアドレスを使用する場合は、上述のグローバルアドレスを先頭とし、連続した複数のアドレスを指定します。その個数を 1 ~ 16 の範囲で指定します。

アドレス割当てタイマ

アドレス変換情報は一定の時間に該当する通信を行わないと、自動的に解放されます。解放するための猶予時間を 0 ~ 24 時間の範囲で指定します。0 を指定すると、回線が切断するまで情報は解放されません。

NAT セキュリティ

“ 高い ” を選択する場合、ftp や dns の要求する相手からの応答かどうかをチェックします。相手サーバが NAT を使用している際など、要求先とは別のアドレスから応答する場合は、“ 通常 ” を選択します。

フラグメント順序変更

NAT は、フラグメントされたパケットの順序が前後逆転して受信した場合、そのパケットを破棄します。フラグメントされたパケットの順序が逆転しないように、あらかじめパケットを整列させる機能を使う場合は、“ 使用する ” を選択します。

[静的 NAT 情報一覧]

NAT を使用すると、アドレス変換情報は固定で持つことができます。現在設定されている固定のアドレス変換情報の一覧です。

静的 NAT の定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[帯域制御 (WFQ) 情報一覧]

現在、このネットワークに設定されている帯域制御の定義の一覧です。帯域制御の定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[マルチホーミング情報]

マルチホーミング機能

マルチホーミング機能はWANに送信されるパケットの一部をLAN上の他のルータに転送することによりWAN回線を負荷分散します。また本装置のWANインタフェースのケーブル抜けや前述のLAN上の他のルータを経由する経路に障害が発生した場合に、障害が発生した経路を通過しないようにパケットを送信して高信頼性を実現します。

マルチホーミング情報の説明でのセッションとは送信元IPアドレスと宛先IPアドレスの組のことであり、TCPのセッションとは異なります。また、静的マルチホーミング情報で設定した通信とFTPのデータ送受信の通信はここには含まれません。表示メニューのマルチホーミング情報ではtypeがdynamicである情報がこのセッションにあたります。セッションは順次方式・双方方式のセッション数切り分けとラウンドロビン方式で使用されます。

マルチホーミング情報でtypeがFTPである情報はFTPのデータの送受信であり、切り分けには使用されません。

静的マルチホーミング情報が設定されている場合、マルチホーミング情報より静的マルチホーミング情報が優先されます。

マルチホーミング機能でのパケットの切り分け方式を設定します。

使用しない

マルチホーミング機能を使用しません。以下のマルチホーミング情報の設定は無視されます。

順次方式

切り分け閾値が“セッション数”の場合、指定した「最大セッション数」を超えるWAN向きのセッションはLAN上の転送先ルータを経由します。

切り分け閾値が“回線使用率”の場合、WANの回線使用率が指定した「最大回線使用率」を超えているときに始まった新しいセッションは、LAN側の転送先ルータを経由します。

切り分け閾値が“最大回線使用速度”の場合、「最大回線使用速度」に指定した速度を超えているときに始まったセッションは、LAN側の転送先ルータを経由します。

この方式を使用する場合は以下を設定します。

- 「切り分け閾値」
- 「最大セッション数」、「最大回線使用率」、または「最大回線使用速度」
切り分け閾値に“セッション数”を選択した場合は「最大セッション数」を、“回線使用率”を選択した場合は「最大回線使用率」を、“最大回線使用速度”を選択した場合は「最大回線使用速度」をそれぞれ指定します。
- 「転送先ルータIPアドレス」
- 「転送セッション経路監視用IPアドレス」

ラウンドロビン方式

本装置のWANを経由するWAN側セッションとLAN側の転送先ルータを経由する転送セッションの比率が一定になるようにパケットを振り分けます。

この方式を使用する場合は以下を設定します。

- 「セッション比率 (WAN側：転送側)」

- 「転送先ルータIP アドレス」
- 「転送セッション経路監視用IP アドレス」

双方方式

切り分け閾値を超えるまでは「順次方式」と同様に動作し、切り分け閾値を超えている間は「ラウンドロビン方式」と同じ動作をします。

この方式を使用する場合は以下を設定します。

- 「切り分け閾値」
- 「最大セッション数」、「最大回線使用率」、または「最大回線使用速度」
切り分け閾値に“セッション数”を選択した場合は「最大セッション数」を、“回線使用率”を選択した場合は「最大回線使用率」を、“最大回線使用速度”を選択した場合は「最大回線使用速度」をそれぞれ指定します。
- 「セッション比率（WAN 側：転送側）」
- 「転送先ルータIP アドレス」
- 「転送セッション経路監視用IP アドレス」

最大セッション数

順次方式または双方方式で閾値に使用する最大セッション数を0～256の範囲で指定します。
このセッション数を超えた分のセッションは転送セッションとなります。順次方式または双方方式の切り分け閾値に回線使用率または最大回線使用速度を使用する場合は指定する必要はありません。

最大回線使用率

順次方式または双方方式で閾値に使用する最大回線使用率を0～100の範囲で指定します。
回線使用率がこの指定値を超えている時に新しいセッションが発生すると、そのセッションは転送セッションとなります。順次方式または双方方式の切り分け閾値にセッション数または最大回線使用速度を使用する場合は指定する必要はありません。

最大回線使用速度

順次方式または双方方式で閾値に使用する最大回線使用速度を0～128の範囲で指定します。
順次方式または双方方式の切り分け閾値にセッション数または回線使用率を使用する場合は指定する必要はありません。

セッション比率（WAN 側：転送側）

ラウンドロビン方式または双方方式を使用する場合、WAN 側と転送側の経路を通るセッションの割合を選択します。セッションとは送信元 IP アドレスと宛先 IP アドレスの組のことであり、TCP のセッションとは異なります。順次方式を使用する場合は選択する必要はありません。

転送先ルータIP アドレス

転送セッションのパケットを転送する先のルータのアドレスを指定します。

セッションタイムアウト時間

動的なセッション管理一覧に記録されたセッションが、ここで指定した時間を超えても無通信状態が続くと、そのセッションは一覧から削除されます。1 ~ 1440 分の範囲で指定します。

転送セッション経路監視

監視用IPアドレス

転送セッションの経路の状態を監視するために実行する ping の宛先 IP アドレスを指定します。

ping 実行間隔

前記の ping の実行間隔を 1 ~ 255 の範囲で指定します。

障害認識無応答回数

前記の ping の応答をここで指定する回数で連続して受信できない場合に、転送セッションの経路に障害が発生したと認識します。1 ~ 16 の範囲で指定します。

復旧判断応答回数

転送セッションの経路に障害があると認識されている状態で、前記の ping の応答をここで指定した回数を連続して受信した場合に障害から復旧したと認識します。1 ~ 16 の範囲で指定します。

WAN 側セッション経路監視

WAN 側セッションの経路の状態を監視するために実行する ICMP ECHO パケットの宛先 IP アドレスを指定します。ICMP ECHO パケットの宛先 IP アドレスを指定しない場合は、WAN 側セッションが使用する回線の状態によって、WAN 側に障害が発生、または障害から復旧したと認識します。

宛先IPアドレス

WAN 側セッションの経路の状態を監視するために実行する ICMP ECHO パケットの宛先 IP アドレスを指定します。0.0.0.0 を指定した場合は、ICMP ECHO パケットによる監視は行わず、使用する回線の状態によって、WAN 側に障害が発生、または障害から復旧したと認識します。

再送間隔

ICMP ECHO パケットの再送間隔を 1 ~ 60 秒の範囲で指定します。省略した場合は、5 秒に設定されます。

タイムアウト時間

ICMP ECHO パケットの応答を待つ時間を [再送間隔 + 1] ~ 240 秒で指定します。省略した場合は、再送間隔 × 3 + 1 秒に設定されます。

正常時送信間隔

WAN側の回線に障害が発生していない、または障害から復旧して正常と見なしているときのICMP ECHOパケットの送信間隔を[タイムアウト時間+1]～255秒の範囲で指定します。省略した場合は、タイムアウト時間+1秒に設定されます。

異常時送信間隔

WAN側の回線に障害が発生し、異常と見なしているときのICMP ECHOパケットの送信間隔を1～255秒の範囲で指定します。省略した場合は、30秒に設定されます。

こんな事に気をつけて

WAN側セッション経路監視の宛先IPアドレスを指定した場合は、本装置から宛先IPアドレスの監視ホストに対してICMP ECHOパケットを定期的に送出します。そのため、定額制でない回線を使用する場合は、超過課金の原因となることがあります。このような環境では、WAN側セッション経路監視の宛先IPアドレスを指定しないでください。

[静的マルチホーミング情報一覧]

現在、このネットワークに設定されている静的マルチホーミング情報の一覧です。特定のアプリケーションに属するパケットのマルチホーミング経路を固定するために使用する情報で64個まで設定できます。処理は優先順位1から順に行います。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。静的マルチホーミング情報で設定した通信はマルチホーミング情報には表示されません。

[IPv6 基本情報]

IPv6

WAN回線上でIPv6の通信を使用するかどうかを選択します。

インタフェースID

“自動”を選択する場合は、装置のMACアドレスから自動生成されるインタフェースIDを使用します。通常はこの設定を使用します。

“指定する”を選択する場合は、16ビットごとに区切り文字(:)を入れて、16桁の16進数でインタフェースIDを指定します。このとき、他の装置と違うインタフェースIDを指定します。

記述例)

fedc:ba98:7654:3210

IPv6 アドレス

本装置のLAN側のIPv6アドレスを標準的なIPv6アドレスで指定します。本装置ではprefix lengthは64に固定されます。インタフェースID部分がすべて0の場合は、指定するアドレスはprefixとして解釈されます。実際に利用するアドレスは、そのアドレスにインタフェースIDを付与したものとなります。

記述例)

fec0::1000:200:fffc:1111:1111

完全なIPv6アドレスとして解釈されます。

fec0:0:0:1000::

prefixとして解釈され、インタフェースID部分にはインタフェースIDが付与されます。

Valid Lifetime

通常は奨励値“30日”を使用します。

有効範囲)

0 ~ 365日

0 ~ 8760時

0 ~ 525600分

0 ~ 31536000秒

期限を定めない(無期限)の場合は、チェックボックスをチェックします。

Pref. Lifetime

通常は奨励値“7日”を使用します。

有効範囲)

0 ~ 365日

0 ~ 8760時

0 ~ 525600分

0 ~ 31536000秒

期限を定めない(無期限)の場合は、チェックボックスをチェックします。

フラグ

ルータ広報のプレフィックス情報ごとに設定するフラグフィールドの内容を2桁の16進数で指定します。この領域の値として、RFC2461で以下の値が定義されています。必要に応じて以下の値の論理和を設定してください。

- on-link flag 80
- autonomous address-configuration flag 40

特に問題がない場合は“c0”を使用します。

ルータ広報

ルータ広報メッセージ(router advertisement message)を送信する場合は“送信する”を選択し、以下の項目を設定します。

最大送信間隔

ルータ広報メッセージの最大送信間隔を指定します。

有効範囲) 4 ~ 1800

最小送信間隔

ルータ広報メッセージの最小送信間隔を指定します。

有効範囲) 3 ~ 最大送信間隔の 3 / 4

Router Lifetime

ルータ広報で送信する Router Lifetime の内容を指定します。

有効範囲) 0 または 最大送信間隔 ~ 9000

MTU

ルータ広報で送信する MTU option の内容を指定します。無指定の場合には MTU option を含めません。

有効範囲) 1280 ~ 1500

Reachable Time

ルータ広報で送信する Reachable Time の内容を指定します。

有効範囲) 0 ~ 3600000

Retrans Timer

ルータ広報で送信する Retrans Timer の内容を指定します。

有効範囲) 0 ~ 4294967295

Cur Hop Limit

ルータ広報で送信する Cur Hop Limit の内容を指定します。

有効範囲) 0 ~ 255

フラグ

ルータ広報の本体部分に設定するフラグフィールドの内容を2桁の16進数値で指定します。この領域の値として、RFC2461 で以下の値が定義されています。必要に応じて以下の値の論理和を設定してください。

- Managed address configuration flag 80
- Other stateful configuration flag 40

ヘッダ圧縮

送受信するパケットのヘッダ部分を圧縮します。圧縮アルゴリズムは、IP ヘッダ圧縮 (RFC2507 / RFC2508 に準拠) をサポートします。使用する指定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

[IPv6 ダイナミックルーティング機能]

RIPng 送信

RIPng を送信するかどうかを選択します。

メトリック値

加算するメトリック値を選択します。“RIPng 送信する”を選択した場合だけ有効です。

RIPng 受信

RIPngを受信するかどうかを選択します。

サイトローカルプレフィックス

サイトローカルプレフィックスを交換するかどうかを選択します。

経路集約

RIPngで集約経路を送信する場合に、集約して広報する経路を設定します。

集約経路

デフォルトルートまたはネットワーク指定を選択し、集約して広報する経路を指定します。

破棄経路設定

集約経路に対する破棄経路を設定するかどうかを選択します。破棄経路を設定すると、転送先にこの経路を選択したパケットは破棄され、パケット送信元にICMPv6エラーメッセージが送信されます。

[IPv6 スタティックルーティング情報一覧]

現在、WAN 側に設定されている IPv6 のスタティックルーティング情報の一覧です。IPv6 スタティックルーティングの定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[IPv6 フィルタリング情報一覧]

現在、このネットワークに設定されている IPv6 フィルタリング情報の一覧です。処理は優先順位 1 から順に行います。IPv6 フィルタリングの定義は装置全体で 64 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[ブリッジ情報]

ブリッジ機能

接続相手とブリッジ機能を使用して通信するかどうかを選択します。

STP 機能

STP 機能を利用して経路制御を行うかどうかを選択します。行う場合は、“使用する”を選択して、以下の項目を指定します。この設定項目はブリッジ機能を使用する場合だけ有効です。

パスコスト

STP で利用するパスコストを選択します。“ 指定する ” を選択する場合は、1 ～ 65535 の範囲で指定します。パスコストの適性値が不明な場合は、“ 自動決定 ” を選択すると、自動的にパスコストが決定されます。

インタフェース優先度

STP で使用するインタフェースごとの優先度を 0 ～ 255 の範囲で指定します。値が小さい方が優先となります。

[MAC フィルタリング情報一覧]

現在の WAN 回線接続の MAC フィルタリング情報の一覧です。MAC フィルタリングの定義は装置全体で 128 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

接続先情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[接続先一覧]

接続先情報設定

基本情報	ダイヤル基本情報	マルチルーティング
発信情報	着信情報	発信者番号識別による着信情報
IPsec情報	IKE情報	

[基本情報]

接続先名

利用方法

☒ ダイヤル回線を使う
※ ダイヤル基本情報から発信者番号識別による着信情報までの情報を設定してください。

☐ IPv6 over IPv4 トンネルを使う

自側エンドポイント

相手側エンドポイント

☐ IPsec/IKE(Aggressive Mode)を使う

自装置名

IDタイプ

☒ FQDN
☐ User-FQDN

相手側エンドポイント

※ IPsec情報およびIKE情報を設定してください。

☐ 破棄する

4

接続先情報設定 239

[ダイヤル基本情報]	
ダイヤル1	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
ダイヤル2	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
ダイヤル3	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
DNSサーバ	. . .
MP接続	☒ しない ☐ する BAP/BACP利用 ☐ する ☒ しない ※発信者番号による識別で番号をチェックしない場合は着信相手識別情報の設定が有効
無通信監視タイム	60 秒
課金単位時間	昼間(月～金) (08:00～19:00) : 0 秒 夜間(土日の昼間) (19:00～23:00) : 0 秒 深夜・早朝 (23:00～08:00) : 0 秒
回線接続保持機能	☒ 常時 ☐ テレホーダイ ☐ 使用しない

[マルチルーティング]	
ソースアドレスルーティング	ローカルホストIPアドレス . . . アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
ポートルーティング	ポート番号 / サーバホスト名 修正 / 削除 追加 全削除
接続制限	☐ 指定した時間を超えて接続しない 時間 ☐ 指定した課金を超えて接続しない 円

[発信情報]	
送信認証情報	送信認証ID
	認証パスワード
コールバック要求	☒ しない ☐ する
	コールバック方式 CBCP
	コールバックウェイトタイム 60 秒
	コールバック電話番号
	コールバックサブアドレス
[着信情報]	
着信許可	☐ する ☒ しない
受諾認証情報	認証ID
	認証パスワード
[発信者番号識別による着信情報]	
発信者番号による識別	☐ 番号チェックをしない ☒ 番号チェックをする
チェック番号	電話番号
	サブアドレス ※未設定時は基本情報の番号でチェックする
認証方式	☒ PAP ☒ CHAP
コールバック応答	☒ しない ☐ する
	コールバック方式 CBCP
	コールバックウェイトタイム 10 秒
	コールバック電話番号
	コールバックサブアドレス
⚠ 設定ホストとSI-R130との通信バケットが対象バケットとなる設定を行うとその設定ホストからの設定変更ができなくなる場合があります。	
[IPsec情報]	
対象バケット	送信元IPアドレス
	送信元アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	宛先IPアドレス
	宛先アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
SAの設定	暗号アルゴリズム ☒ des-cbc ☐ 3des-cbc ☐ null
	認証アルゴリズム ☒ hmac-md5 ☐ hmac-sha1 ☐ 認証なし
	PFSグループ 使用しない
	SA有効時間 8 時間
	SA更新 ☐ Responder時は更新しない

[IKE]情報		
IKE認証鍵	鍵識別	☐ 16進数 ☒ 文字列
	鍵	
IKE認証方法		shared
ポート番号		500
SAの設定	暗号アルゴリズム	des-cbc
	ハッシュアルゴリズム	hmac-md5
	PFSグループ	modp768
	SA有効時間	24 時間
初回再送時間		10 秒
再送回数		3 回
IKEネゴシエーション開始動作		☒ 対象バケット送信契機 ☐ 対象回線接続契機
IKEセッション監視	宛先IPアドレス	. . .
	正常時送信間隔	10 秒
	異常時送信間隔	180 秒

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[基本情報]

接続先名

この接続先を識別するための名称を半角英数字8文字以内で指定します。この接続名は手動接続の際にも使用されます。

利用方法

この接続先との通信で利用する方法（通信方式）を以下の4つから選択します。

ダイヤル回線を使う

ISDN回線を利用して通信する場合に選択します。

IPv6 over IPv4 トンネルを使う

IPv6 over IPv4 トンネルを利用して通信する場合に選択します。

自側（相手側）エンドポイントの指定

IPv4形式のアドレスを指定します。

IPsec/IKE（Aggressive Mode）を使う

IPsec/IKE（Aggressive Modeの発側）を利用して通信する場合に選択します。

固定IPアドレスでIPsecによる暗号化通信を行う場合は、「詳細設定メニュー」の「IPsec情報」を設定してください。

自側装置名

自装置を識別する名前を64文字以内で指定します。

IDタイプ

ネゴシエーションの交換タイプを選択します。

相手側エンドポイント

IPv4形式のアドレスを指定します。

破棄する

送信するパケットをすべて破棄する場合に選択します。

[ダイヤル基本情報]

ダイヤル1 / 2 / 3

接続に用いる電話番号は3つまで指定できます。ダイヤル1の電話がかからない場合はダイヤル2に、ダイヤル2がかからない場合はダイヤル3にダイヤルします。相手種別は送信時にだけ参照されます。着信時は自動認識します。

電話番号

電話番号を32桁以内で指定します。電話番号には、0～9、*、#を使用できます。

サブアドレス

サブアドレスを19桁以内で指定します。

PIAFS (64Kbps) 着信時は、指定したサブアドレスは無視されます。

相手種別

相手の種別をISDN、32kPIAFS、64kPIAFS (NTT DoCoMo方式)、64kPIAFS (DDI Pocket方式)の中から選択します。

DNSサーバ

接続するときに使用するDNSサーバのIPアドレスを指定します。ProxyDNSを使用するときに必要です。省略、または0.0.0.0を指定する場合は、自動取得となります。

255.255.255.255を指定する場合は使用しません。また、このアドレスはPPPのネゴシエーションの中で相手から要求がある場合、相手に受け渡すDNSサーバアドレスとしても使用します。

MP接続

MP接続を行うかどうかを選択します。“する”を選択する場合は、BAP / BACPの利用可否も選択します。ただし、発信者番号では識別されない相手から着信がある場合、相手情報の着信相手識別情報の設定を参照します。

無通信監視タイマ

ISDN回線の無通信監視タイマを0～3600秒の範囲で指定します。その時間を超えても、通信が行われない場合は、ISDN回線を自動的に切断します。なお、0を指定した場合、自動切断を行いません。

課金単位時間

各時間帯の課金単位時間を0.0～3600.0秒の範囲で指定します。ここで指定する時間は無通信監視による回線切断のときに参照し、同一料金で最大の接続時間を得るよう回線切断タイミングを調整します。なお、昼間時間帯に0を指定した場合、課金単位の調整は行いません。また、夜間時間帯や深夜・早朝時間帯に0を指定した場合は、その前の時間帯の指定を利用します。

⚠注意

この機能を使用するときは、操作メニューの時刻設定を用いて本装置の内部時計を正しく設定してください。また、祝日の料金体系には対応していません。

回線接続保持機能

“常時”を選択すると、他の設定や通信の有無にかかわらず接続状態を保持します。また、相手から切断された場合や回線エラーによる切断が行われた場合は自動で再接続を行います。ただし、本装置で手動切断を行うと、次に手動接続が行われるまで自動接続動作は行いません。

⚠注意

フレッツ・ISDNなどの通信料定額サービス以外で“常時”を選択すると、高額な通信料金が課せられます。

“テレホーダイ”を選択すると、テレホーダイ機能の動作中に、この接続先が回線接続保持の対象となります。テレホーダイ契約されている電話番号向けの機能です。

[マルチルーティング]

従来のIPルーティングに加え、ローカルホストIPアドレス、ポート番号、および接続制限の組み合わせによるルーティングを行います。

ソースアドレスルーティング

ローカルホストIPアドレスによるルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをローカルホストIPアドレスによって定義します。

ローカルホストIPアドレス、アドレスマスクの組み合わせにより、対象となるローカルホストIPアドレスを決定します。

⚠注意

すべての接続先に対してソースアドレスルーティングを設定している状態で、本装置のファームウェア更新や通信確認（ping）などを行うことはできません。必ず1つはソースアドレスルーティングを行わない接続先を定義します。

ポートルーティング

ポート番号を使用して、ルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをポート番号（サービス）によって定義します。ポートルーティングの定義は装置全体で32個まで設定できます。

接続制限

この接続先を接続時間と課金によって発信抑制します。時間は0～999時間、金額は0～999,999円の範囲で指定できます。

[発信情報]

接続先への発信に関する情報を設定します。

送信認証情報

発信時に使用する認証IDとパスワードをそれぞれ64桁以内で指定します。

コールバック要求

コールバック要求を行うかどうかを選択します。コールバック要求とは、いったん接続して認証を行ったあとに回線を切断して、相手から電話をかけ直してもらう機能です。

要求する場合は、“する”を選択し、以下の項目を設定します。

コールバック方式

コールバックを行う場合の方式をCBCP、または無課金の中から選択します。Microsoft製品やCBCP方式をサポートしている装置とのコールバックを行う場合は、“CBCP”を選択します。本装置どうしのコールバックを行う場合には“無課金”も選択できます。“無課金”ではコールバック要求側には電話料金はかかりません。

コールバックウェイトタイム

コールバック要求後の着信待ち時間を0～60秒の範囲で指定します（推奨時間60秒）。コールバックがうまくいかないときは、この時間を長くします。

コールバック電話番号

コールバックで相手側にダイヤルしてもらう電話番号を32桁以内で指定します。この電話番号は、CBCP方式によるコールバックにだけ有効です。

コールバックサブアドレス

コールバックで相手側にダイヤルしてもらう電話番号のサブアドレスを半角英数字19文字以内で指定します。このサブアドレスは、CBCP方式によるコールバックにだけ有効です。

[着信情報]

接続先からの着信に関する情報を設定します。接続先の特定に使用します。

着信許可

この接続先から着信を許可するかどうかを選択します。

受諾認証情報

着信時に受け付ける認証 ID とパスワードをそれぞれ 64 桁以内で指定します。発信者番号で接続先を識別できる場合は、この情報を省略し、代わりに相手情報の受諾認証 ID 情報を使用できます。

[発信者番号識別による着信情報]

発信者番号で識別する相手の着信に関する情報を設定します。

着信時の相手識別の方法は 2 つあります。発信者番号通知を用いる方法と、認証 ID を用いる方法です。

発信者番号による識別

発信者番号通知で相手を識別するかどうかを選択します。識別する場合は、“番号をチェックする”を選択し、以下の項目を設定します。識別しない場合は、以下の項目を設定する必要はありません。

チェックする番号

相手識別に使用する電話番号を 32 桁以内、サブアドレスを 19 桁以内で指定します。省略時は基本情報の値を使用します。なお、PIAFS (64Kbps) 着信時には、指定したサブアドレスは無視されます。

認証方式

着信時に利用する認証プロトコルを選択します。どちらも選択しない場合は、その相手からの着信は認証しません。

コールバック応答

相手からのコールバック要求に応答するかどうかを選択します。応答する場合は、“する”を選択し、以下の項目を設定します。

コールバック方式

コールバックを行う場合の方式を CBCP、または無課金の中から選択します。Microsoft 製品や CBCP 方式をサポートしている装置とのコールバックを行う場合は、“CBCP”を選択します。本装置どうしのコールバックを行う場合には“無課金”も選択できます。“無課金”ではコールバック要求側には電話料金はかかりません。

コールバックウェイトタイマ

コールバック要求を受け、回線切断後、発信を行うまでの待ち時間を 0 ~ 60 秒の範囲で指定します (推奨 10 秒)。コールバックがうまくいかないときは、この時間を長くします。

コールバック電話番号

コールバック要求を受け、自側がダイヤルする電話番号を 32 桁以内で指定します。

コールバックサブアドレス

コールバック要求を受け、自側がダイヤルする電話番号のサブアドレスを半角英数字 19 文字以内で指定します。

[IPsec 情報]

対象パケット

送信元（宛先）IP アドレス / アドレスマスク

IPsec を適用するセッションの送信元 IP アドレスおよびアドレスマスクと、宛先 IP アドレスおよびアドレスマスクを指定します。

SA の設定

暗号アルゴリズム

トンネリングするパケットの暗号アルゴリズムを使用する場合に選択します。3des-cbc、des-cbc、null の順に比較されます。

認証アルゴリズム

トンネリングするパケットの認証アルゴリズムを選択します。hmac-md5、hmac-sha1、認証なしの順に比較されます。“ 認証なし ” だけを選択した場合は、パケットの認証を行いません。

PFS グループ

自動鍵交換の鍵を生成するための鍵素材です。値が大きい程セキュリティ強度は高くなります。ただし、装置の負荷が高くなる場合があります。使用しない場合は、“ 使用しない ” を選択します。

SA 有効時間

SA の有効期限を時間で指定します。指定した時間が経過した時点で、SA の有効期限が切れ、IKE によって SA 情報や鍵情報が自動的に更新されます。

SA 更新

SA の更新時間を選択します。initiator SA は有効時間満了の 90 秒前、responder SA は有効時間満了の 30 秒前に設定されます。“ Responder 時は更新しない ” を選択した場合は、Responder 側からの SA 更新は行いません。

[IKE 情報]

SA の設定

暗号アルゴリズム

IKE セッションの送受信パケットを暗号化 / 復号化するためのアルゴリズムを選択します。

ハッシュアルゴリズム

IKE セッションのネゴシエーションパケットを認証するためのアルゴリズムを選択します。

PFSグループ

値が大きい程セキュリティ強度は高くなります。ただし、装置の負荷も高くなる場合があります。

SA 有効時間

IKE SA の有効期限を時間で指定します。指定した時間が経過した時点で、IKE によって SA の設定は自動的に更新されます。

以下の範囲で SA 有効時間を指定します。

単位)

1 ~ 24 時

10 ~ 1440 分

600 ~ 86400 秒

初回再送時間

IKE の初回再送時間を 10 進数を使用して、1 ~ 10 秒の範囲で指定します。

再送回数

IKE の再送回数を 10 進数を使用して、1 ~ 10 回の範囲で指定します。

IKE ネゴシエーション開始動作

IKE ネゴシエーション開始動作を指定します。対象回線接続契機を指定した場合は、対象パケット送信契機も含まれます。

IKE セッション監視

指定された宛先 IP アドレスに対して ICMP ECHO パケットを送信します。応答がタイムアウトした場合に ISAKMP/IPsec SA を解放します。

宛先 IP アドレス

ICMP ECHO パケットの送出先 IP アドレス指定します。宛先 IP アドレスに 0.0.0.0 または省略した場合、IKE セッション監視をしません。また、正常時送信間隔、異常時送信間隔は初期値になります。

正常時送信間隔

ICMP ECHO パケットの応答が正常に受信されている状態で、次に ICMP ECHO パケットを送信する間隔を 1 ~ 60 秒の範囲で指定します。省略した場合は 10 秒に設定されます。

異常時送信間隔

ICMP ECHO パケットのタイムアウトが発生してから応答が受信されるまでの周期送信する間隔を、60 ~ 600 秒の範囲で指定します。応答が受信された場合は正常時送信間隔状態に戻ります。省略した場合は 3 分に設定されます。

こんな事に気をつけて

IKE セッション監視機能を使用すると、本装置から宛先 IP アドレスのホストに対して ICMP ECHO パケットを定期的に出します。そのため、定額制でない回線を使用している場合は、超過課金の原因となることがあります。このような環境では、IKE セッション監視機能を使用しないでください。

ポートルーティング情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[接続先一覧]→[マルチルーティング]

ポートルーティング情報設定

[ポートルーティング情報] 

ポート番号	ftp	〈番号指定: “その他”を選択時のみ有効です
サーバホスト名		

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[ポートルーティング情報]

ポート番号を使用して、ルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをポート番号（サービス）によって定義します。この機能はProxyDNSを使用する場合だけ有効です。

ポート番号

ポートルーティングの対象となるサービスを選択します。ポート番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、1～65535の範囲で指定します。

サーバホスト名

ポートルーティングの対象となるホスト名を半角英数字80文字以内で指定します。

ルーティング情報設定（ネットワーク情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧] →
[スタティックルーティング情報一覧]

ルーティング情報設定

?

ネットワーク	☐ デフォルトルート
	☒ ネットワーク指定
	宛先IPアドレス
	宛先アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
メトリック値	1
優先度	0

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

このページでは、ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

ネットワーク

デフォルトルート、またはネットワーク指定を選択し、宛先および中継先のネットワークを指定します。ネットワーク指定は、指定するネットワークを宛先に持つパケットの転送先を指定するもの、デフォルトルートは、ネットワーク指定されていない宛先をもつパケットの転送先を指定するものです。

メトリック値

メトリック値を選択します。これは、ここで設定するルーティング情報をRIPで送信するときに加算されます。

優先度

ここで設定したルーティング情報の優先度を0～254の範囲で指定します。省略時は0が設定されます。優先度は小さい値がより高い優先度を示します。指定した優先度はルーティングプロトコルの経路情報の優先度と比較され、優先度の高い経路が使用されます。ルーティングプロトコルの優先度のデフォルトは以下のとおりです。ルーティングプロトコルに設定されている優先度と同じ値は設定しないでください。

BGP : 20

RIP : 120

IPフィルタリング情報（ネットワーク情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[IPフィルタリング情報一覧]

IPフィルタリング情報		
動作	☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断	
プロトコル	すべて ▼ (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)	
送信元情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0) ▼
	ポート番号[.]	
宛先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0) ▼
	ポート番号[.]	
TCP接続要求	☒ 対象 ☐ 対象外	
TOS		

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する動作を行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

動作

IPフィルタリングの動作を以下の3つから選択します。

透過

条件と一致する場合にパケットを透過します。

透過（接続中のみ）

条件と一致する場合に、ISDN回線が接続しているときはパケットを透過します。切断しているときは遮断します。

遮断

条件と一致する場合にパケットを遮断します。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを以下の6つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元 / 宛先情報

IP アドレス / アドレスマスク

フィルタリング条件としてのIPアドレス、およびアドレスマスクを指定します。

チェック対象となるパケットのIPアドレスと、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致します。

ポート番号

フィルタリング条件としてポート番号を10進数を使用して、1～65535の範囲、または‘any’で指定します。‘any’を指定する場合は、すべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。また、ポート番号を複数指定する場合は、‘,’で区切ります。範囲指定の場合は、‘-’で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて10組まで設定できます。

TCP 接続要求

TCPプロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを選択します。

TOS

IPパケットのTOSフィールド値を16進数を使用して、0～ffの範囲、または‘any’で指定します。TOSフィールド値を複数指定する場合は、‘,’で区切ります。範囲指定の場合は、‘-’で区切ります。10組まで設定できます。何も設定しない場合は、すべてのTOSフィールド値をフィルタリングの対象とします。

TOS 値書き換え情報（ネットワーク情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧] →
[TOS 書き換え情報一覧]

TOS値書き換え情報	
プロトコル	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
送信元情報	IPアドレス
	アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]
宛先情報	IPアドレス
	アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]
TOS	
新TOS	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[TOS 値書き換え情報]

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する TOS 値書き換えを行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

プロトコル

TOS 値書き換えの条件としてプロトコルを以下の6つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元 / 宛先情報

IP アドレス / アドレスマスク

TOS 値書き換え条件としての IP アドレス、およびアドレスマスクを指定します。

チェック対象となるパケットの IP アドレスと、定義する IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致します。

送信元（宛先）情報のポート番号

TOS 値書き換え条件としてポート番号を 10 進数を使用して、1 ~ 65535 の範囲、または 'any' で指定します。'any' を指定する場合は、すべてのポート番号が TOS 書き換えの対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は、'/' で区切ります。範囲指定の場合は、'-' で区切ります。送信元情報と宛先情報で合わせて 10 組まで設定できます。

TOS

TOS 値書き換えの条件として IP パケットの TOS フィールド値を 16 進数を使用して、0 ~ ff の範囲、または 'any' で指定します。TOS フィールド値を複数指定する場合は、'/' で区切ります。範囲指定の場合は、'-' で区切ります。10 組まで設定できます。何も設定しない場合は、すべての TOS フィールド値を書き換えの対象とします。

新 TOS

IP パケットに新しく設定する TOS フィールド値を 16 進数を使用して、0 ~ ff の範囲で指定します。

静的NAT 情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[静的NAT 情報一覧]

静的NAT情報設定

?

プライベートIP情報	IPアドレス	
	ポート番号	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
グローバルIP情報	IPアドレス	
	ポート番号	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
プロトコル		すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

プライベートIP 情報

固定でアドレス変換を行う場合にローカルネットワーク側のIPアドレスとポート番号を指定します。IPアドレスは省略できません。

ポート番号を指定する場合は、“その他”を選択し、1～65535の範囲で指定します。グローバルポート番号を範囲指定する場合は、その範囲のグローバルポート番号が、指定するプライベートポート番号を先頭とする範囲へ変換されます。例えば、プライベートポート番号に1000を指定し、グローバルポート番号に10000-11000を指定すると、グローバルポート番号の10000～11000はプライベートポート番号の1000～2000に変換されます。

グローバルIP 情報

固定でアドレス変換を行う場合は、WAN側のIPアドレスとポート番号を指定します。IPアドレスは省略できます。省略する場合は、すべてのグローバルアドレスに対して有効な設定となります。ポート番号を指定する場合は、1～65535の範囲で1つ、または‘/’で区切った1組の範囲を指定します。

プロトコル

固定でアドレス変換を行う場合は、対象となるプロトコルを以下の8つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・ESP (50)
- ・AH (51)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

帯域制御（WFQ）情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[帯域制御（WFQ）情報一覧]

帯域制御(WFQ)情報設定

プロトコル (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)

送信元情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
宛先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]	
対象TOSフィールド値		
帯域		100 %

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定する任意のプロトコル、IP アドレス、ポート番号、TOS フィールド値の条件を元に、帯域を割り当てます。

プロトコル

帯域制御の対象となるプロトコルを以下の6つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元 / 宛先情報

IP アドレス / アドレスマスク

帯域制御の対象となる IP アドレス、およびアドレスマスクを指定します。対象となるパケットの IP アドレスと定義するアドレスマスクの論理積と、定義する IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致することになります。

ポート番号

帯域制御の対象となるポート番号を 10 進数を使用して、1 ~ 65535 の範囲、または 'any' で指定します。'any' を指定する場合は、すべてのポート番号が対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は、'/' で区切ります。範囲指定の場合は、 '-' で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて 10 組まで設定できます。

対象 TOS フィールド値

帯域制御の対象となる TOS フィールド値を 16 進数を使用して、0 ~ ff の範囲で指定します。TOS フィールド値を複数指定する場合は、 ';' で区切ります。範囲指定の場合は、 '-' で区切ります。10 組まで設定できます。何も設定しない場合は、すべての TOS フィールド値を帯域制御の対象とします。

帯域

割り当てる帯域 (%) を 10 進数を使用して、0 ~ 100 の範囲で指定できます。0 は非優先 (ベストエフォート) 100 は最優先を表します。同じ相手ネットワーク中で、0 のものと 100 のものを除いたものの帯域トータルが 100 を越える場合には、それらの比率に従って帯域を割り当てます。

静的マルチホーミング情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[静的マルチホーミング情報]

静的マルチホーミング情報設定

マルチホーミング経路	☒ WANに送出 ☐ 転送先ルータに転送
障害時の経路変更	☒ 変更する ☐ 変更しない
プロトコル	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
送信元ポート番号	
宛先ポート番号	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

特定のアプリケーションに属するパケットのマルチホーミング経路を固定するために使用します。その情報に従って、一致するパケットをWANに送出するか、またはLAN側の転送先ルータに転送します。

マルチホーミング経路

プロトコルとポート番号が一致するパケットをWANとLANのどちらに送信するかを選択します。“WANに送出”を選択する場合は、パケットをWANに送出します。“転送先ルータに転送”を選択する場合は、LAN側にある転送先ルータに転送します。転送先ルータは「マルチホーミング情報」で設定します。

障害時の経路変更

上記の「マルチホーミング経路」で設定した経路に障害が発生して不通となった場合にどうするかを選択します。“変更する”を選択する場合は、パケットを破棄しないで、上記の「マルチホーミング経路」で設定した経路とは異なる経路にパケットを転送します。“変更しない”を選択する場合は、マルチホーミング経路を変更しないでパケットを破棄します。

プロトコル

パケットのトランスポートプロトコルを以下の6つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元ポート番号、宛先ポート番号

ポート番号を10進数を使用して、1～65535の範囲、または‘any’で指定します。‘any’を指定する場合は、すべてのポート番号がフィルタリングの対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は、‘,’で区切ります。範囲指定の場合は、‘-’で区切ります。送信元ポートと宛先ポートを合わせて10組まで設定できます。

4

IPv6 ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[IPv6 スタティックルーティング情報一覧]

IPv6ルーティング情報設定



ネットワーク	☐ デフォルトルート ☒ ネットワーク指定 宛先ネットワーク/プレフィックス長 /
メトリック値	1

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

IPv6ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

ネットワーク

デフォルトルート、またはネットワーク指定を選択し、宛先および中継先のネットワークを指定します。ネットワーク指定は、指定するネットワークを宛先に持つパケットの転送先を指定するもの、デフォルトルートは、ネットワーク指定されていない宛先をもつパケットの転送先を指定するものです。

メトリック値

メトリック値を選択します。これは、ここで設定するルーティング情報をRIPngで送信するときに加算されます。

IPv6 フィルタリング情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[IPv6 フィルタリング情報一覧]

IPv6フィルタリング情報設定

?

動作	☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断	
プロトコル	すべて ▼ 番号指定: “その他”を選択時のみ有効です	
送信元情報	IPv6アドレス/プレフィックス長	/
	ポート番号[...]	
宛先情報	IPv6アドレス/プレフィックス長	/
	ポート番号[...]	
TCP接続要求	☒ 対象 ☐ 対象外	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する動作を行います。

動作

IPv6 フィルタリングの動作を以下の3つから選択します。

透過

条件と一致する場合にパケットを透過します。

透過（接続中のみ）

条件と一致する場合に、ISDN回線が接続しているときはパケットを透過します。切断しているときは遮断します。

遮断

条件と一致する場合にパケットを遮断します。

プロトコル

プロトコルを以下の5つから選択します。

- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMPv6 (58)
- ・すべて (255)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元 / 宛先情報

IPv6 アドレス / プレフィックス長

IPv6 アドレス、およびプレフィックス長を指定します。チェック対象となるパケットの IPv6 アドレスと、定義する IPv6 アドレスとプレフィックス長の論理積が等しい場合に条件に一致します。

ポート番号

ポート番号を10進数を使用して、1～65535の範囲、または‘any’で指定します。‘any’を指定する場合は、すべてのポート番号がフィルタリングの対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は、‘,’で区切ります。範囲指定の場合は、‘-’で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて10組まで設定できます。

TCP 接続要求

TCP プロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを選択します。

MAC フィルタリング情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[MACフィルタリング情報一覧]

MACフィルタリング情報設定



動作	☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断
送信元MACアドレス	すべて アドレス指定(“指定する”を選択時のみ有効です) : : : : :
宛先MACアドレス	すべて アドレス指定(“指定する”を選択時のみ有効です) : : : : :
フォーマット種別	すべて “LLC形式”の場合はLSAP, “Ethernet形式”の場合はtype値を入力してください

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新
キャンセル

WAN モジュールで送受信するときにフィルタリング処理をします。優先順位の高い定義より、順にパケットをチェックします。フィルタリング条件が一致する場合に定義する動作を行います。

動作

フィルタリング条件に一致するときの MAC フィルタリングの動作を以下の 3 つから選択します。

透過

フィルタリング条件と一致する場合に、透過します。

透過（接続中のみ）

フィルタリング条件と一致する場合に、回線が接続しているときは、透過します。切断しているときは、破棄します。

遮断

フィルタリング条件と一致する場合に、遮断します。

送信元 / 宛先 MAC アドレス

MAC アドレスを以下の項目から選択します。“ 指定する ” を選択する場合は、アドレス指定に MAC アドレスを 16 進数で指定します。

すべて

すべての MAC アドレスを対象とします。

ブロードキャスト

ブロードキャスト MAC アドレスを対象とします。

マルチキャスト

ブロードキャスト MAC アドレスおよびマルチキャスト MAC アドレスを対象とします。

指定する

アドレス指定に指定する MAC アドレスを対象とします。

フォーマット種別

フィルタリング対象のフォーマットを以下の項目から選択します。LLC 形式の場合は、LSAP を 16 進数を使用して、0 ~ ffff の範囲で指定し、“ Ethernet 形式 ” の場合は、type 値を 16 進数を使用して、5dd ~ ffff の範囲で指定します。

LLC 形式

LLC 形式のパケットを対象とします。

Ethernet 形式

Ethernet 形式のパケットを対象とします。

すべて

すべてのパケットを対象とします。

不特定相手情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]

不特定相手情報設定

基本情報 MP情報 IPフィルタリング情報
TOS値書き換え情報

[基本情報]

割当先頭アドレス	
同時接続許可数	1
DNSサーバ	
ヘッダ圧縮	☒ VJ ☐ IPヘッダ圧縮
データ圧縮	☐ LZS
無通信監視タイマ	0 秒

[MP情報]

MP回線初期リンク数	1	※コールバック応答時に有効
アナログ使用時縮退	☐ する ☐ しない	
トラフィックによる増減	☐ しない ☐ する	
	回線使用率	猶予時間
	回線増加条件	90 % 10 秒
	回線削減条件	40 % 60 秒
※コールバック応答時またはBAP/BACP使用時に有効		
受信パケット順序制御	☐ する ☐ しない	

[IPフィルタリング情報一覧]

優先順位	動作	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク 送信元ポート番号 宛先IPアドレス/マスク 宛先ポート番号	TCP接続要求	TOS	修正/削除/移動
追加 全削除						

[TOS値書き換え情報一覧]

優先順位	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク 送信元ポート番号 宛先IPアドレス/マスク 宛先ポート番号	TOS 新TOS	修正/削除/移動
追加 全削除				

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[基本情報]

相手情報で定義したどの相手とも判断できない着信相手に対する動作に関する情報を設定します。

割当先頭アドレス

着信相手に対して、割り当てる先頭の IP アドレスを指定します。同時接続許可数と組み合わせて範囲（許可数）を指定します。

割当先頭アドレスを省略する場合は、不特定相手からの着信は行われません。

同時接続許可数

割当先頭アドレスを先頭に、相手に割り当てる同時接続許可数を選択します。

DNS サーバ

相手から要求がある場合に、通知する DNS サーバの IP アドレスを指定します。

ヘッダ圧縮

送受信するヘッダを圧縮します。ヘッダ圧縮のアルゴリズムは、VJ ヘッダ圧縮（RFC1144 に準拠）および IP ヘッダ圧縮（RFC2507 / RFC2508 に準拠）をサポートします。使用する指定の場合も、実際にヘッダ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

データ圧縮

送受信するデータを圧縮します。データ圧縮のアルゴリズムは、LZS をサポートします。使用する指定の場合も、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

無通信監視タイマ

ISDN 回線の無通信監視タイマを 0 ～ 3600 秒の範囲で指定します。その時間を超えても、通信が行われない場合は、ISDN 回線を自動的に切断します。なお、0 を指定した場合は、自動切断を行いません。

[MP 情報]

MP（MultilinkPPP）の情報を設定します。

MP 回線初期リンク数

回線接続時に接続するチャンネル数を選択します。

アナログ使用時縮退

アナログ使用時縮退を行うかどうかを選択します。

アナログ使用時縮退は、MPで2本のチャンネルを使用している時に、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話の受話器を上げたりする場合に、チャンネルを1本に減らしてアナログ機器を使用することができます。

トラフィックによる増減

回線負荷に応じて帯域幅（1B、2B）を自動的にコントロールする機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合は、回線増減の条件も指定します。指定する回線使用率を超える（削減の場合は下回った）状態が“猶予時間”以上続く時点で、回線の接続（削減の場合は切断）を行います。回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定します。

受信パケット順序制御

MPを使用する場合は、必ず“する”をチェックします。しない”をチェックすると、MPとヘッダ圧縮（VJ）を併用する場合にヘッダ圧縮（VJ）が無効になります。

[IPフィルタリング情報一覧]

現在、設定されているIPフィルタリング情報の一覧です。処理は優先順位1から順に行います。IPフィルタリングの定義は装置全体で64個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[TOS 値書き換え情報一覧]

現在、設定されているTOS値書き換え情報の一覧です。処理は優先順位1から順に行います。TOS値書き換えの定義は装置全体で32個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

IPフィルタリング情報（不特定相手情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[IPフィルタリング情報]

IPフィルタリング情報

動作

☒ 透過
 ☐ 透過(接続中のみ)
 ☐ 遮断

プロトコル

すべて
 (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)

送信元情報

IPアドレス

アドレスマスク

ポート番号[.]

宛先情報

IPアドレス

アドレスマスク

ポート番号[.]

TCP接続要求

☒ 対象
 ☐ 対象外

TOS

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義する動作を行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

動作

IPフィルタリングの動作を以下の3つから選択します。

透過

条件と一致する場合にパケットを透過します。

透過（接続中のみ）

条件と一致する場合に、ISDN回線が接続しているときは、パケットを透過します。切断しているときは、遮断します。

遮断

条件と一致する場合にパケットを遮断します。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを以下の6つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元 / 宛先情報

IP アドレス / アドレスマスク

フィルタリング条件としてのIPアドレス、およびアドレスマスクを指定します。

チェック対象となるパケットのIPアドレスと、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致します。

ポート番号

フィルタリング条件としてポート番号を10進数を使用して、1～65535の範囲、または‘any’で指定します。‘any’を指定する場合は、すべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。また、ポート番号を複数指定する場合は、‘,’で区切ります。範囲指定の場合は、‘-’で区切ります。送信元情報と宛先情報を合わせて10組まで設定できます。

TCP 接続要求

TCPプロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを選択します。

TOS

IPパケットのTOSフィールド値を16進数を使用して、0～ffの範囲、または‘any’で指定します。TOSフィールド値を複数指定する場合は、‘,’で区切ります。範囲指定の場合は、‘-’で区切ります。10組まで設定できます。何も設定しない場合は、すべてのTOSフィールド値をフィルタリングの対象とします。

TOS 値書き換え情報（不特定相手情報）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[ネットワーク情報一覧]→
[TOS書き換え情報一覧]

TOS値書き換え情報	
プロトコル	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
送信元情報	IPアドレス
	アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]
宛先情報	IPアドレス
	アドレスマスク 0 (0.0.0.0)
	ポート番号[.]
TOS	
新TOS	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[TOS 値書き換え情報]

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行い、すべての条件が一致する場合に定義するTOS 値書き換えを行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

プロトコル

TOS 値書き換えの条件としてプロトコルを以下の6つから選択します。

- ・すべて (0)
- ・TCP (6)
- ・UDP (17)
- ・ICMP (1)
- ・IPv6 over IPv4 (41)
- ・その他

プロトコル番号を指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、0～255の範囲で指定します。

送信元 / 宛先情報

IP アドレス / アドレスマスク

TOS 値書き換え条件としての IP アドレス、およびアドレスマスクを指定します。

チェック対象となるパケットの IP アドレスと、定義する IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致します。

ポート番号

TOS 値書き換え条件としてポート番号を 10 進数を使用して、1 ~ 65535 の範囲、または 'any' で指定します。'any' を指定する場合は、すべてのポート番号が TOS 書き換えの対象となります。また、ポート番号を複数指定する場合は、'/' で区切ります。範囲指定の場合は、 '-' で区切ります。送信元情報と宛先情報で合わせて 10 組まで設定できます。

TOS

TOS 値書き換えの条件として IP パケットの TOS フィールド値を 16 進数を使用して、0 ~ ff の範囲、または 'any' で指定します。TOS フィールド値を複数指定する場合は、 '/' で区切ります。範囲指定の場合は、 '-' で区切ります。10 組まで設定できます。何も設定しない場合は、すべての TOS フィールド値を書き換えの対象とします。

新 TOS

IP パケットに新しく設定する TOS フィールド値を 16 進数を使用して、0 ~ ff の範囲で指定します。

PPP 受諾認証情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「相手情報」→[受諾認証ID 情報一覧]

PPP受諾認証情報

[受諾認証情報]

受諾認証ID

受諾認証パスワード

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

[受諾認証情報]

主に不特定相手からの着信時の認証に使用する情報です。

着信時に受け付ける相手の認証IDとパスワードをそれぞれ64桁以内で指定します。

ルーティングプロトコル情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ルーティングプロトコル情報」

ルーティングプロトコル情報設定

[ルーティングマネージャ情報](#)

[BGP関連]

BGP情報

BGP広報ネットワーク

BGP相手情報

[ルーティングマネージャ情報]



RIP広報	BGP受信経路情報	☒ 広報しない ☐ 広報する メトリック値: 0
	スタティックルーティング	☐ 広報しない ☒ 広報する
BGP広報	スタティックルーティング	☒ 広報しない ☐ 広報する
	インタフェース経路情報	☒ 広報しない ☐ 広報する
優先度	RIP	120
	BGP	20

[BGP情報]



BGP機能	☐ 使用する ☒ 使用しない
自AS番号	
自ID番号	

[BGP広報ネットワーク一覧]



広報ネットワーク	広報条件	広報対象	修正/削除
	追加	全削除	

[BGP相手情報]



相手IPアドレス	相手AS番号	HOLDタイム	MED	AS PATH	修正/削除
-	-	-	-	-	修正 削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新	キャンセル
----	-------

4

[ルーティングマネージャ情報]

RIP 広報

RIP で広報する経路情報を選択します。

BGP 受信経路情報

BGP の持つ経路情報を広報します。

メトリック値

BGP の経路情報に設定するメトリック値を 0 ~ 16 の範囲で選択します。

スタティックルーティング情報

本装置に設定されているスタティックルーティングの経路情報を広報します。

こんな事に気をつけて

RIP では、インタフェースが接続されているネットワークの経路情報は常に広報され、広報しないようにすることはできません。

BGP 広報

BGP で広報する経路情報を選択します。

スタティックルーティング情報

本装置に設定されているスタティックルーティングの経路情報を広報します。

こんな事に気をつけて

- スタティックルーティングの経路情報を広報する場合は、同じ宛先の経路情報を BGP で受信するとスタティックルーティングの経路情報を優先します。
 - デフォルトルートが BGP で広報する場合は、BGP 相手情報設定でデフォルトルートを “ 広報する ” に設定してください。
-

インタフェース経路情報

インタフェースが接続されているネットワークの経路情報を広報します。

優先度

複数のルーティングプロトコルで同じ経路情報を受信した場合や受信した経路情報がスタティックルーティングで設定している経路情報と同じだった場合、どの経路情報を優先的に使用するかを優先度で判断します。

優先度を 10 進数を使用して、1 ~ 254 の範囲で指定します。なお、優先度は小さい方が高い優先度を示します。

こんな事に気をつけて

- 優先度は他のプロトコルやスタティックルーティングに設定されている値と同じ値は指定しないでください。
- スタティックルーティングの優先度のデフォルトは0です。

[BGP 情報]

BGP を使って経路広報を行うかどうかを選択します。

こんな事に気をつけて

- 本装置では、IP-VPNサービスへのアクセスプロトコルでだけ BGP が使用できます。
- バージョン4だけをサポートしています。
- BGPの認証機能はサポートしていません。
- 利用できるセッションはE-BGPとして1つだけです。I-BGP は使用できません。
- WAN側 IP アドレスを必ず設定してください。
- BGPでは、インタフェースの状態にかかわらず、経路情報を広報します。例えば、BGPで、広報用にスタティック経路情報やインタフェースの経路情報を設定しておく、ケーブル抜けなどが発生した場合にも、経路情報を広報します。
- 経路情報を、ルーティング情報の最大値まで保持している場合、受信した BGP パケットは破棄されます。破棄された BGP パケットの経路情報は、その後、ルーティング情報に空きができた場合でも、ルーティング情報に反映されません。
- NAT は同時に使用できません。

⚠注意

WAN回線で使用する場合は、専用回線でだけ使用することができます。ISDN（回線交換）でBGPを使用した場合、思わぬ課金（定期発信または長時間接続）が発生します。

自AS番号

本装置の属するAS番号を10進数を使用して、1～65535の範囲で指定します。

自ID番号

本装置を一意に示すIDを指定します。指定するIDは他のルータと重複しないIDをドット形式で指定します。一般的には自装置のIPアドレス（IPv4）を指定します。

省略時または0.0.0.0を指定する場合、自装置のインタフェースに指定したIPアドレスの中で最も大きい値をIDとして使用します。

[BGP 広報ネットワーク一覧]

現在、設定されている相手装置に広報するネットワークと広報する形態の一覧です。広報ネットワークの定義は装置全体で16個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[BGP 相手情報]

現在、設定されているBGPの相手情報です。BGPの相手情報の定義は装置全体で1個設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

BGP 広報ネットワーク設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ルーティングプロトコル情報」→[BGP 広報ネットワーク一覧]

BGP 広報ネットワーク設定

?

ネットワークアドレス	
アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
広報条件	☒ 常に広報 ☐ 範囲内経路情報存在時のみ広報
広報対象	☐ 範囲内経路情報も広報

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

このページでは、BGP 相手装置に広報するネットワーク情報と広報する形態を設定できます。

ネットワークアドレス / アドレスマスク

BGP を使用して広報するネットワークのアドレスとアドレスマスクを指定します。

ネットワークアドレスにデフォルトルートを示す 0.0.0.0 は設定できません。

こんな事に気をつけて

指定したネットワークアドレス / アドレスマスクよりも長いサブネットマスクの経路情報は、受信することができません。

広報条件

指定したネットワークアドレス / アドレスマスクを広報する条件を以下から選択します。

常に広報

指定したネットワークアドレス / アドレスマスクを常に広報します。

範囲内経路情報存在時のみ広報

BGP で広報する経路情報の中に、指定したネットワークアドレス / アドレスマスクの範囲内のものがある場合だけ、指定したネットワークアドレス / アドレスマスクを広報します。

広報対象

BGP で広報する経路情報の中に、指定したネットワークアドレス / アドレスマスクの範囲内のものがある場合、その経路情報も合わせて広報するかどうかを選択します。

チェックボックスをチェックしていない場合

指定したネットワークアドレス / アドレスマスクを広報します。BGP で広報する経路情報の中に、指定したネットワークアドレス / アドレスマスクの範囲内のものがあっても、その経路情報は広報しません。

チェックボックスをチェックした場合

指定したネットワークアドレス / アドレスマスクを広報します。BGP で広報する経路情報の中に、指定したネットワークアドレス / アドレスマスクの範囲内のものがあつた場合、その経路情報も広報します。

こんな事に気をつけて

BGP で広報する経路情報は、「ルーティングプロトコル情報設定」の [ルーティングマネージャ情報] の BGP 広報で “ 広報する ” を設定したものが対象となります。RIP の経路情報は対象にはなりません。

BGP 相手情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ルーティングプロトコル情報」→[BGP相手情報]

BGP相手情報設定



相手IPアドレス	
相手AS番号	
KeepAliveタイム	30 秒
HOLDタイム	90 秒
MEDメトリック値	0
AS PATH	0
MULTI HOP	1
デフォルトルート	☒ 広報しない ☐ 広報する

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

このページでは、BGP 広報を行う相手装置の情報を設定できます。

相手IPアドレス

BGP 広報する相手装置のIPアドレスを指定します。BGP 相手装置とルータを経由して接続する場合は、経由するルータの数をMULTI HOPに加算して指定します。また、WAN側のIPアドレスにLAN側のIPアドレスを指定している場合は、MULTI HOPを1加算して指定します。

相手AS番号

BGP 広報する相手装置のAS番号を10進数を使用して、1～65535の範囲で指定します。指定するAS番号は、自AS番号と異なる番号を指定します。

KeepAlive タイマ

無通信状態のとき、相手装置との通信可否を確認するために送信するKeep Aliveメッセージのタイマを設定します。

以下の範囲でKeep Alive タイマ値を指定します。

有効範囲)

1～18時間

1～1092分

1～65535秒

こんな事に気をつけて

Keep Alive タイマの値は、HOLD タイマより小さい値を指定してください。

HOLD タイマ

相手装置との間で、通信異常と判断する無通信状態の時間（タイマ）を指定します。このタイマ値は、相手装置とのネゴシエーションで決まり、装置間でより小さな値が使用されます。以下の範囲でHOLD タイマ値を指定します。

有効範囲)

1 ~ 18 時間

1 ~ 1092 分

3 ~ 65535 秒

こんな事に気をつけて

相手装置とのネゴシエーションによって、相手装置のHold タイマ値が使用された場合は、その値の3分の1の値がKeepAlive タイマとして使用されます。

MEDメトリック値

相手装置へ広報する経路情報に付加するMEDメトリック値を10進数を使用して、0 ~ 4294967295の範囲で指定します。

AS PATH

BGPで広報する経路情報に付加するAS番号の個数を10進数を使用して、0 ~ 4の範囲で指定します。

MULTI HOP

相手装置とBGP接続する場合のIPパケットのTTL値を10進数を使用して、1 ~ 255の範囲で指定します。

デフォルトルート

BGPでデフォルトルートの広報を許可するかどうかを選択します。対象となるデフォルトルートにはスタティックルーティング情報があります。

装置情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「装置情報」

装置情報設定

タイムサーバ情報	システムログ情報	ファームウェア更新情報
SNMP情報	ブリッジ情報	オンラインサポート情報
留守モード情報		

[タイムサーバ情報]

タイムサーバ	☒ 使用しない ☐ 使用する
	プロトコル ☒ TIMEプロトコル ☐ SNTP
	時刻サーバIPアドレス . . .
	自動時刻設定間隔 日

[システムログ情報]

セキュリティログ	☐ PPP
	☐ IPフィルタ
	☐ URLフィルタ
	☐ NAT
	☐ DHCP
システムログ送信	☒ 送信しない ☐ 送信する
	送信先ホスト . . .

[ファームウェア更新情報]

転送元ホスト名	
ログインID	
ログインパスワード	
ファイルロケーション	

[SNMP情報]	
SNMPエージェント機能	☒ 使用しない ☐ 使用する
ルータ管理者	
機器名称	
機器設置場所	
SNMPホスト1	☐ publicとする(任意のホストを対象とする) ☐ 指定する コミュニティ名 IPアドレス トラップ ☒ 送信しない ☐ 送信する 書き込み要求 ☒ 許可しない ☐ 許可する
SNMPホスト2	☐ 指定しない ☐ 指定する コミュニティ名 IPアドレス トラップ ☒ 送信しない ☐ 送信する 書き込み要求 ☒ 許可しない ☐ 許可する

[ブリッジ情報設定]	
学習テーブル生存時間	5 分
ブリッジの優先度	32768
ブリッジのハロー待ち時間	20 秒
ブリッジのハロー送出間隔	2 秒
フォワーディング遅延時間	15 秒

[オンラインサポート情報]	
オンラインサポート接続	☐ しない ☒ する センタ電話番号 暗証番号

[留守モード情報]	
動作	☐ 留守モード中は、スタンバイモードで動作する。 ☐ 留守モード中は、メールを転送する。 ☐ 留守モード中は、メールの一覧を送信する。 ☐ 留守モード中は、TELメールを送信する。 ☐ 着信転送 ☐ 留守モード中は、着信転送を行う。 ☐ 留守モード中は、疑似着信転送を行う。 ☐ 留守モード中は、アナログの留守確認機能を使用する。 ☐ 留守モードを解除する時にメールチェックを行う。

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

[タイムサーバ情報]

本装置は、ネットワーク上のタイムサーバから時刻情報を取得し、内部時計を自動的に設定できます。

タイムサーバ

タイムサーバから時刻情報を取得する場合は、“使用する”を選択し、以下の情報を設定します。

プロトコル

使用するプロトコルを選択します。

時刻サーバのIPアドレス

タイムサーバのIPアドレスを指定します。

自動時刻設定間隔

タイムサーバから定期的に時刻情報を取得するときの取得周期を0～10日の範囲で指定します。0を指定すると、起動（再起動）時だけ時刻情報を取得します。

4

[システムログ情報]

セキュリティログ

不正アクセスのログ情報やIPフィルタ、URLフィルタ、NATにより遮断されるパケットのログ情報、DHCPサーバが割り当てるIPアドレスログを採取します。採取する項目を指定します。

システムログ送信

本装置は、syslog形式でシステムログサーバにシステムログ情報を送信します。送信する場合は、“送信する”を選択し、システムログサーバにシステムログ情報を送信する送信先のIPアドレスを指定します。

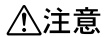
[ファームウェア更新情報]

ファームウェアを入れ替えたり、レベルアップを行うときに、転送元となるホストに接続するための情報を設定します。ファームウェアの更新操作はメンテナンスメニューから行うことができます。

転送元ホスト名

更新用ファームウェアが存在するホスト名を半角英数字128文字以内で指定します。

ドット形式のIPアドレスを指定することもできます。



注意

ProxyDNS が設定されていない場合、ホスト名指定によるファームウェア更新はできません。

ログインID

更新用ファームウェアのログインIDを16文字以内で指定します。

ログインパスワード

更新用ファームウェアのパスワードを32文字以内で指定します。

ファイルロケーション

更新用ファームウェアのロケーションを80文字以内で指定します。

[SNMP 情報]

SNMP エージェント機能

SNMP エージェント機能を使用すると、SNMP マネージャの動作している他のシステムから本装置の状態を監視することができます。SNMP エージェント機能を使用する場合は、“使用する”を選択し、以下の項目を設定します。

ルータ管理者

本装置の管理者名を半角英数字40文字以内で指定します。ただし、空白文字は使用できません。区切り文字は“_”や“.”を使用します。

機器名称

本装置の名称を半角英数字32文字以内で指定します。ただし、空白文字は使用できません。

機器設置場所

本装置の設置場所を半角英数字72文字以内で指定します。ただし、空白文字は使用できません。

SNMP ホスト

SNMP によるアクセスを許可するホストを指定します。ホストは2つまで指定できます。“public とする”を選択すると、コミュニティ名“public”で任意のホストからのアクセスを許可します。コミュニティ名を変更する場合やホストを限定する場合は、“指定する”を選択し、コミュニティ名・IP アドレス・トラップ送信可否を指定します。

コミュニティ名

SNMP により情報交換するグループのコミュニティ名を半角英数字32文字以内で指定します。

IP アドレス

SNMP によるアクセスを許可するホストの IP アドレスを指定します。“0.0.0.0”を指定すると、任意のホストのアクセスを許可します。

トラップ

この SNMP ホストにトラップを送信するかどうかを選択します。ただし、任意のホスト (0.0.0.0) を指定している場合は、トラップの送信は行われません。

書き込み要求

この SNMP ホストから書き込み要求を許可するかどうかを選択します。ただし、任意のホスト (0.0.0.0) を指定する場合は、書き込み要求は許可されません。

[ブリッジ情報設定]

ブリッジ情報設定項目はブリッジ機能を使用する場合だけ有効です。

学習テーブル生存時間

以下の範囲で学習テーブル生存時間を指定します。

有効範囲)

1 ~ 11 日

1 ~ 277 時間

1 ~ 16666 分

10 ~ 1000000 秒

4

ブリッジの優先度

ルートブリッジ決定アルゴリズムで使用するブリッジの優先度を 0 ~ 65535 の範囲で指定します。ブリッジの優先度は値の小さい方が優先となります。この設定は STP を使用する場合だけ有効です。

ブリッジのハロー待ち時間

ルートブリッジ、または代表ブリッジが送出する構成情報 BPDU の待ち時間を 6 ~ 40 秒の範囲で指定します。この設定は STP を使用する場合だけ有効です

ブリッジのハロー送出間隔

ルートブリッジになった時に送出する構成情報 BPDU の送出間隔を 1 ~ 10 秒の範囲で指定します。この設定は STP を使用する場合と本装置がルートブリッジとして動作する場合だけ有効です。

フォワーディング遅延時間

構成情報 BPDU が一番時間のかかる経路に届く時間を指定します。フォワーディング遅延時間を 4 ~ 30 秒の範囲で指定します。この設定は STP を使用する場合と本装置がルートブリッジとして動作する場合だけ有効です。

[オンラインサポート情報]

オンラインサポート接続

オンラインサポート接続をするかどうかを選択します。センタ側からのオンラインサポート接続を許可する場合には“する”を選択し、拒否する場合には“しない”を選択します。オンラインサポート接続を許可するときにセンタ電話番号と暗証番号のどちらも指定していない場合、LANポート用のMACアドレスを認証に使用されます。

センタ電話番号

オンラインサポートを受け付ける相手電話番号を32桁以内で指定します。

暗証番号

オンラインサポートを受け付ける相手との暗証番号を半角英数字19桁以内で指定します。



ヒント

オンラインサポートとは

ISDN回線に接続した遠隔地（リモート側）の本装置を、管理者側（センタ側）の本装置を使用して直接設定する機能です。本機能ではPPPによるIP接続を必要としないので、ご購入時の状態のまま、本装置を設定することができます。ただし、専用線（HSD）では使用できません。

以下の手順で設定を行うことができます。

- 1) WWW ブラウザを使用してセンタ側の本装置のトップメニューを開きます。
- 2) 「メンテナンスメニュー」の「オンラインサポート」で、リモート側の電話番号と暗証番号を指定し、[オンラインサポート開始] ボタンをクリックします。
- 3) 正常に接続したあとは、センタ側の本装置を設定するのと同様の手順でリモート側の設定を行うことができます。
- 4) 「メンテナンスメニュー」の「オンラインサポート」で、[オンラインサポート終了] ボタンをクリックしてオンラインサポートを終了します。

⚠注意

- ・ 本機能を使用して発信するにはINS ネット64の「ユーザ間情報通知サービス」を使用するため、1回の発信につき1メッセージ分の料金が通信料金とは別にかかります。
- ・ オンラインサポート中は、ISDN回線は接続されたままとなります。無通信監視タイマによる自動切断は行われません。設定終了後は必ずオンラインサポートを終了し回線が切断されたことを確認します。
- ・ 暗証番号にはリモート側の本装置に設定された暗証番号を指定します。一致しない場合は、接続できません。なお、リモート側の本装置がご購入時の状態、またはオンラインサポート情報未設定の場合は、暗証番号としてMACアドレスを指定することにより接続できます。MACアドレスは装置底面に表記されているとおり半角小文字の英数字で指定します。

- 本機能を利用する際には、センタ側とリモート側に同一機種の本装置を使用します。ただし、バージョンが異なる場合、設定できない項目もあります。

[留守モード情報]

留守モードに割り当てる動作を選択します。装置のアナログポートに接続されている電話機、操作メニュー、またはスケジュール機能により、留守モードの切り替えができます。

⚠注意

- 留守モード中に電源を切ると留守モードが解除された状態になります。
- 留守モード中に設定変更を行った場合、留守モードで設定された内容と違う動作をする場合があります。
- 回線情報の回線インタフェースがISDN以外で動作している場合は、「留守モード中は、スタンバイモードで動作する」は、無効になります。

パスワード情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「パスワード情報」

パスワード情報設定

新しいログインパスワード

ログインパスワードの確認

《設定以外のサービスについてもパスワードの問い合わせが必要な場合は以下のチェックをしてください。》

☒ 操作

(手動接続/切断、テレホーダイなどのISDN回線の運用)

☒ 表示

(課金情報、ルーティング情報などの運用情報の表示)

☒ メンテナンス

(バージョン情報の表示、ファームウェア更新など)

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

本装置を操作するときのパスワードを半角英数字 16 文字以内で指定します。パスワード入力によって操作の制限が解除される時間は 10 分間です。それ以降の操作ではあらためてパスワードが要求されます。

なお、パスワードは更新直後から有効になります。

操作メニュー、表示メニュー、メンテナンスメニューの操作に関しても、パスワードが必要な場合は、必要な項目を選択します。

E メールエージェント情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「E メールエージェント情報」

Eメールエージェント情報設定

[メールチェック情報一覧](#)
[TELメール情報](#)
[メール着信通知情報](#)

[メールチェック情報一覧]

停止	ユーザ名	メール転送 一覧送信	確認時間	修正／削除
追加 全削除				

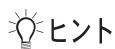
[TELメール情報] **ISDN**

TELメール	☐ 使用する ☒ 使用しない			
送信情報	アナログポート	メールアドレス	送信周期	修正／削除
	アナログポート1	-	-	修正 削除
	アナログポート2	-	-	修正 削除

[メール着信通知情報] **ISDN**

メール着信通知	☒ 使用する ☐ 使用しない	
サブアドレスチェック	☐ チェックしない ☒ 回線情報の自局番号でチェックする ☐ 以下の値でチェックする	
	サブアドレス	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。



E メールエージェント機能には以下の機能があります。

- ・メールチェック機能

メールチェックとは、POP3 プロトコルを使用して、指定時間にPOP3サーバにメールが到着しているかどうかを確認する機能です。メールが到着していれば、メールの件数、差出人、題名、送信時刻を取得します。

- ・メール転送機能

指定時刻になるとPOP3サーバに到着しているメールを指定したメールアドレスに転送する機能です。

- ・メール一覧送信機能

指定時刻になるとPOP3サーバに到着しているメールの一覧情報を指定したメールアドレスに転送する機能です。

- ・ TEL メール機能

アナログポートの着信履歴を着信ごと、または一定時間ごとにメールで送信する機能です。

- ・ メール着信通知機能

メールが到着したことを通知する機能です。プロバイダの“インターネットメールの自動着信通知サービス”を利用します。プロバイダから受信者宛にメールの着信通知を発信し、メールが到達したことを利用者端末に伝えるサービスです。

⚠注意

メール着信通知機能を使用するには、プロバイダが“インターネットメールの自動着信通知サービス”をサポートしている必要があります。

[メールチェック情報一覧]

現在、設定されているメールチェック情報の一覧です。メールチェック情報は10個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

⚠注意

同時刻に複数のメールチェックを実行した場合、メールチェックの実行がずれる場合があります。

停止

メールチェックを一時的に停止する場合は、“停止”をチェックします。

[TEL メール情報]

TEL メール

アナログポートの着信履歴を着信ごと、または一定時間ごとにメールで送信するかどうかを選択します。送信する場合は、“使用する”を選択します。

送信情報

現在、指定されているTELメール情報の一覧です。TELメール情報はアナログポートごとに指定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[メール着信通知情報]

メール着信通知

プロバイダから受信者宛にメールの着信通知を発信し、メールが到着したことを利用者端末に伝えるサービスを使用するかどうかを選択します。

サブアドレスチェック

プロバイダから通知されるメール着信通知を、サブアドレスにより制限できます。チェックする方法を以下の項目から選択します。

チェックしない

すべてのサブアドレスでメール着信通知を受け付けます。

回線情報の自局番号でチェックする

回線情報の自局番号チェックの定義に従います。この場合は、自局番号チェックで許可されないサブアドレスを含むメール着信通知は無視します。

以下の値でチェックする

指定したサブアドレスを含むメール着信通知だけを受け付けます。サブアドレスを半角英数字19文字以内で指定します。

メールチェック情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「Eメールエージェント情報」→[メールチェック情報一覧]

メールチェック情報設定	
メールチェック情報	メール転送/一覧送信情報
[メールチェック情報] 	
ユーザ名	
パスワード	
POP3サーバ	ホスト名 ポート番号 110 番
確認時間	☒ 時刻で指定 毎日 : : 毎日 : : 毎日 : : ☐ 間隔で指定 分
APOP認証	☐ 使用する ☒ 使用しない
リモートメールチェックID	
[メール転送/一覧送信情報] 	
転送/一覧送信	☐ メールを転送する ☐ メール一覧を送信する
SMTPサーバ	ホスト名 ポート番号 25 番
宛先メールアドレス	追加 全削除
差出人変更	☒ しない ☐ する 差出人メールアドレス
転送サイズ指定	☒ しない ☐ する 本文が半角で、約 文字以内 《メールを転送する場合のみ有効です》
一覧形式	☒ 1件を複数行で送信 ☐ 1件を1行で送信 《メール一覧を送信する場合のみ有効です》

[メール転送条件]

動作 ☒ 全て転送する ☐ 条件に従う

条件 ☒ 以下の条件を満たさない場合は転送する
☐ 以下の条件を満たさない場合は転送しない

優先順位 条件 転送 修正/削除/移動

追加 全削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[メールチェック情報]

メールチェックとは、POP3 プロトコルを使用して、指定時間になると POP3 サーバにメールが到着しているかどうかを確認する機能です。メールが到着していれば、メールの件数、差出人、題名、送信時刻を取得します。

⚠注意

- ・ 指定時間になると、回線を自動接続します。あらかじめ相手情報を設定します。
- ・ POP3 サーバが POP3 のオプションコマンド (UIDL、TOP) を実装していない場合は、メール件数だけ取得します。

4

ユーザ名

POP3 サーバにアクセスするためのユーザ名を 32 文字以内で指定します。

パスワード

POP3 サーバにアクセスするためのパスワードを 32 文字以内で指定します。

POP3 サーバ

ホスト名には POP3 サーバ名、または POP3 サーバの IP アドレスを 80 文字以内で指定します。ポート番号は必要に応じて変更します。

確認時間

POP3 サーバにメールの到着を確認する時間を、時刻、または間隔で指定します。
 間隔で指定する場合は、5 分～30 日の範囲で指定します。

APOP 認証

POP3 サーバとの認証に APOP を使用するかどうかを選択します。

⚠注意

APOP 認証を使用する場合は、POP3 サーバが APOP 認証をサポートしている必要があります。

リモートメールチェック ID

リモートメールチェック ID を半角英数字 19 文字以内で指定します。

この ID をサブアドレスとして本装置に電話をかけると、遠隔地からメールチェック、メール転送、メール一覧送信を実行できます。

[メール転送 / 一覧送信情報]

メール転送とは、メールチェックで取得するメールを指定する宛先メールアドレスに転送する機能です。

メール一覧送信とは、メールチェックで取得するメールの送信時刻 (Date) 差出人 (From)、題名 (Subject) の一覧を指定の宛先メールアドレスに送信する機能です。

- ・ 1 回のメールチェックで転送できるメール件数は、1 ユーザにつき 50 件までです。
- ・ 転送できるメールの文字数は半角で約 6144 文字、行数は 200 行以内 (どれも本文だけ) です。このサイズを超える部分は切り捨てられます。
- ・ サイズを超えるメールがマルチパートで構成されている場合は、「転送できないサイズのメールが届いています。」というメールを送信します。

⚠注意

複数の接続先を使用していると別プロバイダ経由で SMTP サーバを使用することがあり、SPAM などの不正メール対策のためにメールの送信が行えない場合があります。

プロバイダによっては、別プロバイダ経由でも POP の認証を行ったあとであればメールの送信を行うことができる場合があります。
詳しくはプロバイダにお問い合わせください。

転送 / 一覧送信

使用する機能を選択します。

SMTP サーバ

ホスト名には SMTP サーバ名、または SMTP サーバの IP アドレスを 80 文字以内で指定します。
ポート番号は必要に応じて変更します。

宛先メールアドレス

宛先メールアドレス (To) を半角 80 文字以内で指定します。

宛先メールアドレスは、5 個まで設定できます。

差出人変更

SMTP サーバの差出人制限によりメールの転送、一覧送信が行えない場合があります。この場合は、差出人を変更することによりメールの転送、一覧送信ができるようになります。

差出人メールアドレスを変更する場合は、“する”を選択して、差出人メールアドレスを設定します。ここで指定する差出人メールアドレスを使用して、メールの転送、一覧送信を行います。

差出人メールアドレス

差出人メールアドレスを半角 80 文字以内で指定します。

転送サイズ指定

転送サイズ指定を行うかどうかを選択します。転送するメールのサイズを 1 ~ 6144 文字の範囲で指定します。

一覧形式

送信するメール一覧の形式を選択します。

[メール転送条件]

動作

メール転送の条件を指定するかどうかを選択します。指定する場合は、“条件に従う”を選択して、条件を指定します。

条件

指定しているメール転送条件の一覧です。転送条件は装置全体で 40 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。また、条件を満たさない場合の動作はここで設定します。

宛先メールアドレス設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「Eメールエージェント情報」→[メール
チェック情報一覧]→[メール転送/一覧送信情報]

宛先メールアドレス設定



メールアドレス

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

宛先メールアドレス

宛先メールアドレス (To) を半角80文字以内で指定します。

宛先メールアドレスは、5個まで設定できます。

条件設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「Eメールエージェント情報」→[メール
チェック情報一覧]→[メール転送条件]

条件設定



転送	☒ する ☐ しない	
条件	差出人に	が含まれる
	または、	
	宛先に	が含まれる
	または、	
	題名に	が含まれる

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

転送

条件を満たす場合にメールを転送するかどうかを選択します。

条件

差出人 (From) 宛先 (To) 題名 (Subject) を転送条件として指定できます。

それぞれ半角 40 文字以内 (全角 20 文字以内) で指定します。

TEL メール情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「Eメールエージェント情報」→[TELメール情報]

TELメール情報設定	
《メール送信を行う前にPOP認証を行う必要がある場合は、認証情報の設定を行ってください》	
[アナログポート] 	
宛先メールアドレス	
差出人メールアドレス	
SMTPサーバ	ホスト名 ポート番号 25
認証情報	☒ POP認証しない ☐ POP認証する ユーザ名 パスワード POP3サーバ ホスト名 ポート番号 110 番 APOP認証 ☐ 使用する ☒ 使用しない
送信周期	☒ 着信毎 ☐ 一定周期 分 毎
送信情報	☒ 発信者番号と着信番号を送信する ☐ 発信者番号のみ送信する
設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。	
更新 キャンセル	

TELメールとは、アナログポートの着信履歴を着信ごと、または一定時間ごとにメールで送信する機能です。

⚠注意

- ・メール送信時には回線を自動接続します。あらかじめ相手情報を設定します。
- ・TELメールの開始がメールチェックとかさなる場合、TELメールの実行がずれる場合があります。

[アナログポート 1、2]

宛先メールアドレス

宛先メールアドレス (To) を半角 80 文字以内で指定します。

差出人メールアドレス

差出人メールアドレス (From) を半角 80 文字以内で指定します。

SMTP サーバ

ホスト名には SMTP サーバ名、または SMTP サーバの IP アドレスを 80 文字以内で指定します。

ポート番号は必要に応じて変更します。

認証情報

TEL メールを送信を行う前に POP 認証をするかどうかを選択します。

⚠注意

複数の接続先を使用していると別プロバイダ経由で SMTP サーバを使用することがあり、SPAM などの不正メール対策のためにメールの送信が行えない場合があります。

プロバイダによっては、別プロバイダ経由でも POP の認証を行ったあとであればメールの送信を行うことができる場合があります。

詳しくはプロバイダにお問い合わせください。

ユーザ名

POP3 サーバにアクセスするためのユーザ名を 32 文字以内で指定します。

パスワード

POP3 サーバにアクセスするためのパスワードを 32 文字以内で指定します。

POP3 サーバ

ホスト名には POP3 サーバ名、または POP3 サーバの IP アドレスを 80 文字以内で指定します。

ポート番号は必要に応じて変更します。

APOP 認証

POP3 サーバとの認証に APOP を使用するかどうかを選択します。

⚠注意

APOP 認証を使用する場合は、POP3 サーバが APOP 認証をサポートしている必要があります。

送信周期

着信履歴をメールで送信するタイミングを、着信ごと、または一定周期で指定します。
一定周期で指定する場合は、5分～7日の範囲で指定します。

送信情報

メールで送信する着信履歴の情報を選択します。

⚠注意

- TELメールの送信情報を「発信者番号のみ送信する」に設定している場合、発信者番号が非通知になっている電話からの着信履歴は送信されません。
- TELメールの送信情報を「発信者番号と着信番号を送信する」に設定している場合、発信者番号と着信番号のどちらも有効な情報がないときは、TELメールによる着信履歴は送信されません。
- TELメール（本文）の着信番号は以下のように設定されます。
 1. ダイヤルインサービスおよびi・ナンバーサービスを利用しない場合
回線から着信番号が通知されないため、TELメールの情報に着信番号は含まれません。「アナログ共通情報」の「網契約に関連する設定項目」の「電話番号」に電話番号を設定していれば、この番号がTELメールの着信番号として送信されます。
 2. ダイヤルインサービスを利用している場合
回線から通知された着信番号（ダイヤルイン番号）がTELメールの着信番号として送信されます。ただし、グローバル着信を利用している場合、契約者番号にかかってくると回線から着信番号が通知されません。このとき、「アナログ共通情報」の「網契約に関連する設定項目」の「電話番号」に電話番号を設定していれば、この番号がTELメールの着信番号として送信されます。
 3. i・ナンバーサービスを利用している場合
「鳴り分け1」、「鳴り分け2」または「鳴り分け3」がTELメールの着信番号として送信されます。ただし、「アナログ共通情報」の「網契約に関連する設定項目」の「鳴り分け番号1/2/3」に電話番号を設定していれば、この番号がTELメールの着信番号として送信されます。

ProxyDNS 情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ProxyDNS 情報」

ProxyDNS情報

このページではProxyDNSとURLフィルタの設定ができます。URLフィルタは順引き情報で設定します。

[順引き情報](#) [逆引き情報](#)

順引き情報一覧

優先順位	ドメイン名 タイプ 送信元IPアドレス/ マスク	動作	DNSサーバアドレス/ ネットワーク名	修正／削除／移動
追加 全削除				

逆引き情報一覧

優先順位	ネットワークアドレス	動作	DNSサーバアドレス/ ネットワーク名	修正／削除／移動
追加 全削除				

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映



ヒント

ProxyDNS には以下の機能があります。

- DNS サーバの自動切替え機能

パソコンに本装置のIPアドレスをDNSサーバとして登録しておくと、接続先によって問い合わせるDNSサーバを自動的に切り替えます。

- DNS サーバ機能

ホストデータベース情報にホスト名とIPアドレスのペアを登録しておくと、ProxyDNSは該当ホスト名へのアクセスを登録されたIPアドレスへのアクセスとして切り替えます。

- URL フィルタ機能

特定のドメイン名（範囲指定も可）へのアクセスを禁止することができます。この機能は順引き情報設定で設定します。

- DNS 問い合わせタイプフィルタ機能

送信元IPアドレス範囲から送信される特定の問い合わせのタイプのDNSパケットを破棄することができます。この機能は順引き情報設定で設定します。

[順引き情報一覧]

ProxyDNS の順引き情報の一覧です。順引き情報はドメイン名により DNS サーバを切り替える範囲を指定する場合、特定ドメイン名へアクセスを禁止する場合、送信元 IP アドレス範囲からの特定の問い合わせタイプの DNS パケットを破棄する場合など、ドメイン名、問い合わせタイプ・送信元 IP アドレス / マスクの組み合わせによりいろいろな使い方ができます。32 個まで定義できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[逆引き情報一覧]

ProxyDNS の逆引き情報の一覧です。逆引き情報は IP アドレスにより DNS サーバを切り替える範囲を指定する場合に使用します。32 個まで定義できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

ProxyDNS 情報設定（順引き）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ProxyDNS 情報」→[順引き情報一覧]

ProxyDNS情報設定(順引き)

URLフィルタ機能を使用する場合は、ドメイン名に対象URLを指定し、動作で廃棄するを選択します。

ドメイン名			
タイプ	すべて (番号指定 “その他”を選択時のみ有効です。)		
送信元情報	IPアドレス		
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)	
動作	☒ 廃棄する ☐ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる ネットワーク名 ☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる DNSサーバアドレス		

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

ドメイン名

対象とするドメイン名の範囲を半角英数字80文字以内で指定します。範囲指定には、以下のように、「*」、または「?」が使用できます。なお、ドメイン名のチェックには大文字 / 小文字の区別はありません。

「*」: 0文字以上の任意の文字に一致する。

「?」: 1文字の任意文字に一致する。

《例》

条件:

www.*.com

一致:

www.testa.com

www.test1.test.com

条件:

test

一致:

www.test.com

test.com

test.co.jp

条件：

www.test?.com

一致：

www.test1.com

www.test2.com

www.testA.com

タイプ

対象とする問い合わせタイプを以下の5つから選択します。

- ・すべて（PTRを除く）
- ・A （1）
- ・SOA （6）
- ・SRV （33）
- ・その他

タイプを指定する場合は、“その他”を選択し、10進数を使用して、1～11、13～65535の範囲で指定します。

送信元IPアドレス/マスク

フィルタリング条件として送信元IPアドレスとアドレスマスクを指定します。

チェック対象となるパケットのIPアドレスと、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致します。

動作

対象ドメインに対する動作を以下の3つから選択します。

廃棄する

該当ドメインの転送を無効にするフィルタを指定します。URLフィルタとして利用する場合に設定します。

接続先のDNSサーバへ問い合わせる

接続先情報で設定したDNSサーバへ問い合わせます。どのネットワークで使用するかを選択します。選択したネットワークに複数の接続先が登録されている場合は、マルチルーティングと優先順位に従って接続先を決定します。

設定したDNSサーバへ問い合わせる

特定のDNSサーバへ問い合わせます。問い合わせるDNSサーバのIPアドレスを指定します。

ProxyDNS 情報設定（逆引き）

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ProxyDNS 情報」→[逆引き情報一覧]

ProxyDNS情報設定(逆引き)

ネットワークアドレス すべて
（“指定する”を選択時のみ有効です。）

*IPv4アドレス/ネットマスク形式もしくはIPv6アドレス/プレフィックス長形式で入力してください。

動作

☒ 廃棄する
☐ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる
ネットワーク名
☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる
DNSサーバアドレス

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

4

ネットワークアドレス

対象とするネットワークアドレスを以下の4つから選択します。

すべて

IPv4 と IPv6 両方を選択します。

IPv4 すべて

IPv4 アドレスをすべて選択します。

IPv6 すべて

IPv6 アドレスをすべて選択します。

指定する

IPv4 アドレス / ネットマスク、または IPv6 アドレス / プレフィックスの形式で指定します。

動作

対象ドメインに対する動作を以下の3つから選択します。

廃棄する

該当ネットワークの転送を無効にするフィルタを指定します。

接続先のDNSサーバへ問い合わせる

接続先情報で設定したDNSサーバへ問い合わせます。どのネットワークで使用するかを選択します。選択するネットワークに複数の接続先を登録している場合は、マルチルーティングと優先順位に従って接続先が決定されます。

設定したDNSサーバへ問い合わせる

特定のDNSサーバへ問い合わせます。問い合わせるDNSサーバのIPアドレスを指定します。

ホストデータベース情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ホストデータベース情報」

ホストデータベース情報



＼	ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	Wake-up-ID	電源制御	修正／削除
1	-	-	-	-	-	修正 削除
2	-	-	-	-	-	修正 削除
3	-	-	-	-	-	修正 削除
4	-	-	-	-	-	修正 削除
5	-	-	-	-	-	修正 削除
6	-	-	-	-	-	修正 削除
7	-	-	-	-	-	修正 削除
8	-	-	-	-	-	修正 削除
9	-	-	-	-	-	修正 削除
10	-	-	-	-	-	修正 削除

54	-	-	-	-	-	修正 削除
55	-	-	-	-	-	修正 削除
56	-	-	-	-	-	修正 削除
57	-	-	-	-	-	修正 削除
58	-	-	-	-	-	修正 削除
59	-	-	-	-	-	修正 削除
60	-	-	-	-	-	修正 削除
61	-	-	-	-	-	修正 削除
62	-	-	-	-	-	修正 削除
63	-	-	-	-	-	修正 削除
64	-	-	-	-	-	修正 削除

全削除

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映

登録しているホストデータベース情報の一覧です。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。



ヒント

ホストデータベースには以下の機能があります。

- ・ DNS サーバ機能

「ホスト名」「IP アドレス」のペアを登録することにより、ProxyDNS の DNS サーバ機能を使用することができます。

- ・ リモートパワーオン機能

「MAC アドレス」「Wake-up-ID」のペアを登録することにより、Wakeup on LAN 機能を使用することができます。

- ・ DHCP スタティック機能

「IP アドレス」「MAC アドレス」のペアを登録することにより、DHCP で割り当てられる IP アドレスを端末固有のものとすることができます。

ホストデータベース情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「ホストデータベース情報」→「ホストデータベース情報」

ホストデータベース情報設定



ホスト名	
IPアドレス	
MACアドレス	
Wake-up-ID	
リモート電源制御	☒ 対象 ☐ 対象外

※“リモート電源制御”は、MACアドレスが入力されていないと無効です。

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

ホスト名

DNS サーバ機能で使用されます。80文字以内で指定します。使用する文字は半角のアルファベット・数字・ハイフン・ピリオドだけで、その他の記号は使用できません。

IPアドレス

DNS サーバ機能およびDHCPスタティック機能で使用されます。

MACアドレス

DHCP スタティック機能およびリモートパワーオン機能で使します。MAC アドレスは以下の形式で指定します。

xx:xx:xx:xx:xx:xx (xx は 2 桁の 16 進数)

Wake-up-ID

本装置は、ISDN 接続を契機にして、本装置と同じセグメント上に存在する Magic Packet 対応システムの電源を投入することができます。リモートパワーオン機能使用時に、Magic Packet を送出する LAN 機器の識別 ID を半角英数字 19 文字以内で指定します。

電源制御（リモート電源制御）

本装置と同じセグメントに存在する Wakeup on LAN 対応機器を、リモートパワーオン指示の対象とするかどうかを選択します。

この設定はスケジュール機能や手動操作でリモートパワーオンを指示する場合に使用できます。ISDN 接続先からの制御対象には使用できません。

スケジュール情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「スケジュール情報」

スケジュール情報

このページでは、スケジュール予約情報を設定できます。発着信の制御や課金情報のクリアを定期的
に実行するように設定できます。また、指定した日に接続先の電話番号などを変更することができます。

 スケジュール機能を使用する際には、正しい時刻が設定されているか確認してください。現在の時刻は **Thu Jan 1 10:40:59 1970** です。

[月間／週間予約](#) [電話番号変更予約](#) [構成定義切替え予約](#)

[月間／週間予約一覧]

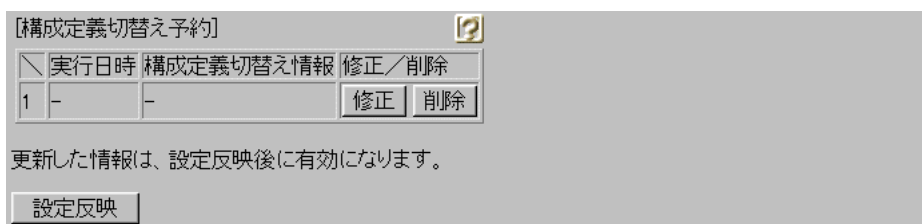


＼ 動作	予約時刻	終了時刻	周期	修正／削除	
1 課金情報クリア	00:00	-	毎週金曜	修正	削除
2 -	-	-	-	修正	削除
3 -	-	-	-	修正	削除
4 -	-	-	-	修正	削除
5 -	-	-	-	修正	削除
6 -	-	-	-	修正	削除
7 -	-	-	-	修正	削除
8 -	-	-	-	修正	削除
9 -	-	-	-	修正	削除
10 -	-	-	-	修正	削除
11 -	-	-	-	修正	削除
12 -	-	-	-	修正	削除
13 -	-	-	-	修正	削除
14 -	-	-	-	修正	削除
15 -	-	-	-	修正	削除
16 -	-	-	-	修正	削除
全削除					

[電話番号変更予約一覧]



＼ 実行日時	電話番号変更情報	修正／削除	
1 -	-	修正	削除
2 -	-	修正	削除
3 -	-	修正	削除
4 -	-	修正	削除
全削除			



実行日時	構成定義切替え情報	修正/削除
1	-	修正 削除

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映

[月間 / 週間予約一覧]

現在、設定されている月間、または週間の予約一覧です。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[電話番号変更予約一覧]

現在、設定されている電話番号変更の予約一覧です。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

[構成定義情報切替え予約]

現在、設定されている構成定義情報切替えの予約一覧です。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

⚠注意

スケジュール機能を使用する前に、必ず本装置の時刻設定を操作メニューから行います。

月間／週間予約設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「スケジュール情報」→[月間／週間予約一覧]

月間／週間予約設定

動作

予約時刻 :

☒ 毎日
☐ 毎週 ☐ 日曜日 ☐ 月曜日 ☐ 火曜日 ☐ 水曜日
☐ 木曜日 ☒ 金曜日 ☐ 土曜日
☐ 毎月 日

終了時刻 :

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

動作

以下の中から予約する処理動作を選択します。

- ・発信抑止
- ・着信抑止
- ・テレホーダイ
- ・課金情報クリア
- ・強制切断
- ・統計情報収集
- ・リモートパワーオン
- ・スタンバイモードへ移行
- ・スタンバイモードを解除
- ・留守モードへ移行
- ・留守モードを解除

予約時刻

選択する動作を実行（開始）する時刻と実行周期を指定します。

終了時刻

選択する動作を終了する時刻を指定します。動作として発信抑止、着信抑止、テレホーダイを選択する場合にだけ指定できます。ここで予約時刻よりも早い時刻を指定すると、それは翌日の時刻になります。

電話番号変更予約設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「スケジュール情報」→[電話番号変更予約一覧]

電話番号変更予約設定

実行日時

年

月

日

時

分

電話番号変更情報

変更前1		変更後1	
変更前2		変更後2	
変更前3		変更後3	
変更前4		変更後4	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

全構成定義情報で定義している電話番号について、指定時刻に電話番号の変更ができます。

⚠注意

指定時刻になると自動的に再起動され、電話番号が変更されます。そのとき、データ通信 / 電話を使用中の場合は、回線が切断されます。

実行日時

電話番号を変更する日時を西暦で指定します。

電話番号変更情報

変更前と変更後の電話番号をそれぞれ32桁以内で指定します。

4

構成定義切替え予約設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「スケジュール情報」→[構成定義切替え予約]

構成定義切替え予約設定



実行日時

年月日時分

動作

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

本装置には構成定義情報が2つあります。指定時刻に運用する構成定義情報を切り替えることができます。指定時刻になると自動的に再起動され、構成定義情報が切り替わります。そのときに、データ通信 / 電話を使用中の場合は、回線が切断されますので注意してください。なお、現在運用中の構成定義情報はメンテナンスメニューの「構成定義切替え」で知ることができます。

実行日時

構成定義情報を切り替える日時を西暦で指定します。

動作

切り替える構成定義情報を指定します。

マルチTA 情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「マルチTA情報」

マルチTA情報 ISDN

マルチTAの使用 ☐ 使用しない ☒ 使用する

同時アクセス数 2

アクセス制限

☒ 全て許可する
☐ 下記のパソコンのみ許可する

IPアドレス . . .
 アドレスマスク 0 (0.0.0.0)

強制切断タイマ 10 時間

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新
キャンセル

この機能は、LANに接続するパソコンから仮想ダイアルアップアダプタを通じてISDNのBチャンネルへダイレクトに接続できるサービスです。

⚠注意

パソコン側は、Microsoft® Windows® のダイアルアップネットワークでのVPN（仮想プライベートネットワーク）機能を使用します。

マルチTAの使用

マルチTAを使用するかどうかを選択します。使用する場合は、以下の項目を設定します。使用しない場合は、以下の設定は無効となります。

同時アクセス数

マルチTAとして使用するISDNのBチャンネルの数を選択します。

アクセス制限

“全て許可する”を選択する場合は、すべてのパソコンが利用できます。“下記のパソコンのみ許可する”を選択した場合は、定義するIPアドレスとアドレスマスクの論理積に一致するパソコンだけ利用できます。

強制切断タイマ

データ通信時の強制切断タイマを0～24時間の範囲で指定します。

0を指定した場合には切断は行われません。

⚠注意

- ブラウザ画面からの強制切断操作ではマルチTA接続は切断されません。ダイヤルアップネットワークの切断操作を行います。
 - スケジュールによる発呼抑止 / 強制切断はマルチTA接続では無効です。
-

IPsec / IKE 情報

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「IPsec 情報」

IPsec/IKE 情報

このページでは、固定IPアドレスでIPsecによる暗号化通信を行うための設定ができます。IPsec情報は、往路と復路を対にして設定する必要があります。

- ⚠ IPsec機能とダイナミックルーティング機能を併用することはできません。
- ⚠ IPsec機能とNATを併用する場合は、マルチNATを使用してください。
- ⚠ IPsec機能とマルチNATを併用する場合は、静的NATの設定が必要になることがあります。

[IPsec情報](#) [IKE情報](#)

[IPsec情報一覧]

優先順位	対象パケット				修正／削除／移動
	IPsec 区間				
	鍵交換方式	暗号情報	認証情報	SPI値	
追加 全削除					

[IKE情報一覧]

番号	相手アドレス	修正／削除
	ポート番号	
追加		

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映

4

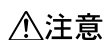
[IPsec 情報一覧]

このページでは、固定IPアドレスでIPsecによる暗号化通信を行うための設定ができます。可変IPアドレスでIPsecによる暗号化通信を行う場合は、「詳細設定メニュー」→「相手情報」→「ネットワーク情報」→「接続先情報」の「IPsec 情報」/「IKE 情報」を設定してください。

現在、この装置に設定されているIPsec情報の一覧です。処理は優先順位1から順に行われます。IPsec情報は、手動鍵設定と自動鍵設定（交換）を合わせて、装置全体で64個（往路／復路、対の設定で32箇所）まで設定できます。

IPsec情報を1個設定することにより片方向のトンネルが1つ作成されます。トンネルは、「往路（相手装置へパケットを送信する）」と「復路（相手装置からパケットを受信する）」を対にして設定する必要があります。

本装置で設定したIPsec情報と同じ設定が、相手装置にも設定されている必要があり、本装置で往路として設定した情報を、相手装置では復路として設定します。また、本装置で復路として設定した情報は、相手装置では往路として設定します。

**注意**

パソコンから本装置へのパケットがトンネルに入ってしまう設定を行うと、WWWブラウザからアクセスできなくなる場合があります。

マルチNAT との併用

IPsec で使用する LAN の IP アドレスがマルチ NAT で使用する IP アドレスに含まれる場合は、以下の静的 NAT を指定する必要があります。

プライベートIP 情報

IP アドレス：IPsec で使用する LAN の IP アドレス

ポート番号：すべて

グローバルIP 情報

IP アドレス：IPsec で使用する LAN の IP アドレス

ポート番号：すべて

プロトコル

AH、または ESP（IPsec で使用されるプロトコルを指定）

IPsec で使用するプロトコル

IPsec で使用するプロトコルは、IPsec の設定により決定します。

暗号情報	認証情報	プロトコル
暗号化しない	認証なし	ESP (null encrypt)
暗号化しない	○	AH (認証)
○	認証なし	ESP (暗号)
○	○	ESP (認証 + 暗号)

認証情報 ○：hmac-md5、または hmac-sha1

暗号情報 ○：des-cbc、または 3des-cbc

[IKE 情報一覧]

現在、この装置に設定されている IKE 情報の一覧です。IKE 情報の定義は装置全体で 32 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

IPsec 情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「IPsec / IKE 情報」→ [IPsec情報一覧]

IPsec情報設定

⚠ 設定ホストとSi-R130との通信パケットが対象パケットとなる設定を行うとその設定ホストからの設定変更ができなくなる場合があります。

[基本情報]



対象パケット	送信元IPアドレス	
	送信元アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	宛先IPアドレス	
	宛先アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
IPsec区間	起点IPアドレス	
	終点IPアドレス	

鍵交換方式	☒ 自動鍵交換(IKE)を使用する	
	暗号アルゴリズム	☒ des-cbc ☐ 3des-cbc ☐ null
	認証アルゴリズム	☒ hmac-md5 ☐ hmac-sha1 ☐ 認証なし
	PFSグループ	使用しない
	SA有効期限	時間: 8 時間
		データ量: 0 GByte
	☐ 手動鍵設定を使用する	
	SPI値	(16進数)
	暗号アルゴリズム	des-cbc
	暗号鍵	鍵識別: ☒ 16進数 ☐ 文字列
鍵:		
認証アルゴリズム	hmac-md5	
認証鍵	鍵識別: ☒ 16進数 ☐ 文字列	
	鍵:	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

[基本情報]

対象パケットの送信元（宛先）IP アドレス / アドレスマスク

トンネリングの対象となる IP アドレス、およびアドレスマスクを指定します。チェック対象となったパケットの IP アドレスと、指定した IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合にトンネリングの対象となります。

IPsec を適用するセッションの送信元 IP アドレスおよびアドレスマスクと、宛先 IP アドレスおよびアドレスマスクを指定します。

IPsec 区間の起点 / 終点 IP アドレス

IPsec を行う区間を指定します。

往路を設定する場合

起点：IPsec で使用する LAN の IP アドレス

終点：相手装置の IP アドレス

復路を設定する場合

起点：相手装置の IP アドレス

終点：IPsec で使用する LAN の IP アドレス

鍵交換方式

自動鍵交換（IKE）を使用する場合

自動で鍵交換を行う場合は、“自動鍵交換（IKE）を使用する”を選択し、往路 / 復路で同じ暗号アルゴリズム、認証アルゴリズム、PFS グループ、SA 有効期限を設定します。

暗号アルゴリズム

トンネリングするパケットの暗号アルゴリズムを使用する場合に、選択します。暗号アルゴリズムは複数定義することができます。複数定義する場合は、3DES-CBC、DES-CBC、NULL の順に比較されます。暗号アルゴリズムを選択しない場合は、パケットの暗号化を行いません。

認証アルゴリズム

トンネリングするパケットの認証アルゴリズムを選択します。認証アルゴリズムは複数定義することができます。複数定義する場合は、HMAC-MD5、HMAC-SHA1、認証なしの順に比較されます。認証アルゴリズムを選択しない場合、および“認証なし”だけを選択する場合は、パケットの認証を行いません。

PFS グループ

自動鍵交換で鍵を生成するための鍵素材です。値が大きい程セキュリティ強度は高くなりますが、その分鍵生成のための計算に時間がかかるため、装置の負荷が高くなる場合があります。PFS グループを使用しない場合は、“使用しない”を選択します。

SA 有効期限

SAの有効期限を時間、およびデータ量で指定します。指定した時間が経過した時点、またはIPsec通信したデータ量が指定データ量に達した時点で、SAの有効期限が切れ、SA情報や鍵情報がIKEによって自動的に更新されます。

時間

以下の範囲で有効時間を指定します。

有効範囲)

1 ~ 24 時

10 ~ 1440 分

600 ~ 86400 秒

データ量

以下の範囲で有効データ量を指定します。

有効範囲)

1 ~ 105 GByte (ギガバイト)

3 ~ 108000 MByte (メガバイト)

2400 ~ 110592000 KByte (キロバイト)

手動鍵設定を使用する場合

鍵設定を手動で行う場合は、“手動鍵設定を使用する”を選択し、SPI値を設定します。また、暗号アルゴリズム、認証アルゴリズムを使用する場合は、それぞれ暗号鍵、認証鍵を必ず設定します。

SPI 値

SPI値は、暗号情報や認証情報を定義した、セキュリティパラメタインデックスです。相手装置の設定と同じ値を指定する必要があります。SPI値を16進数を使って、100 ~ ffffffffの範囲で指定します。

暗号アルゴリズム

トンネリングするパケットの暗号アルゴリズムを選択します。“暗号化しない”を選択した場合は、パケットの暗号化を行いません。

暗号鍵

鍵識別

鍵の識別を選択します。

鍵

以下の範囲で16進数および文字列を使用して、暗号アルゴリズムで使用する暗号鍵を指定します。

暗号アルゴリズム	入力範囲 (16進数鍵)	入力範囲 (文字列鍵)
des-cbc	1 ~ 16 桁	8 文字
3des-cbc	1 ~ 48 桁	24 文字

16進数で16桁（des-cbc 指定時、3des-cbc 指定時は48桁）未満の鍵を指定した場合は、16（48）桁になるまで、自動的に"0"でパディングされます。

文字列で指定する場合は、8文字（des-cbc 指定時、3des-cbc 指定時は24文字）固定の鍵長で指定します。暗号情報のアルゴリズムに“暗号化しない”を選択した場合は、省略できます。

認証アルゴリズム

トンネリングするパケットの認証アルゴリズムを選択します。“認証なし”を選択した場合は、パケットの認証を行いません。

認証鍵

鍵識別

鍵の識別を選択します。

鍵

以下の範囲で16進数および文字列を使用して、認証アルゴリズムで使用する認証鍵を指定します。

認証アルゴリズム	入力範囲（16進数鍵）	入力範囲（文字列鍵）
hmac-md5	1 ~ 32 桁	16 文字
hmac-sha1	1 ~ 40 桁	20 文字

16進数で32桁（hmac-md5 指定時、hmac-sha1 指定時は40桁）未満の鍵を指定した場合は、32（40）桁になるまで、自動的に"0"でパディングされます。

文字列で指定する場合は、16文字（hmac-md5 指定時、hmac-sha1 指定時は20文字）固定の鍵長で指定します。認証情報のアルゴリズムに“認証なし”選択した場合は、省略できます。

IKE 情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「IPsec / IKE 情報」→ [IKE 情報一覧]

IKE情報設定

[相手情報]

IPアドレス

IKE認証鍵

鍵識別

☐ 16進数
☒ 文字列

鍵

IKE認証方法

shared

ポート番号

500

[IKE SA情報一覧]

番号

暗号情報

ハッシュ情報

PFS情報

SA有効時間

修正／削除

追加

全削除

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

4

[相手情報]

自動鍵交換を使用する場合は、前述の IPsec 通信に必要な SA (IPsec SA) の他にもう 1 つ、安全に鍵交換を行うための SA (ISAKMP SA) が必要です。

IP アドレス

IKE セッションを確立する、相手装置の IP アドレスを指定します。

IKE 認証鍵

IKE の認証に用いる鍵を設定します。本装置の IKE 認証には事前共有鍵方式を使用しているため、ここでは事前共有鍵 (Pre-shared key) の設定を行います。事前共有鍵は、IKE を利用した IPsec 通信を行う相手ごとに、また相手装置側でも同じ鍵を設定する必要があります。

鍵識別

鍵の識別を選択します。

鍵

以下の範囲で 16 進数および文字列を使用して、事前共通認証鍵を指定します。

入力範囲 (16 進数鍵)	入力範囲 (文字列鍵)
1 ~ 256 桁	1 ~ 128 文字

IKE 認証方法

IKEの鍵交換で、相手を認証するための認証方法を指定します。本装置では事前共有鍵方式（shared）を使用します。

ポート番号

IKE プロトコルでは通常UDPのポート500 番を使用します。特に問題がない限り500 番を指定します。

[IKE SA 情報一覧]

現在、この装置に設定されているIKE SA 情報の一覧です。IKE SA 情報の定義はIKE 情報ごとに3 個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

IKE SA 情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→ルータ設定「IPsec / IKE 情報」→ [IKE 情報一覧] →
[IKE SA 情報一覧]

IKE SA 情報設定

[IKE SA情報]
?

暗号アルゴリズム	des-cbc
ハッシュアルゴリズム	hmac-md5
PFSグループ	modp768
SA有効時間	24 時間

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新
キャンセル

[IKE SA 情報]

IKE セッションのネゴシエーションの条件を設定します。自側の定義は相手装置の定義と一致することが条件となります。

暗号アルゴリズム

IKE セッションの送受信パケットを暗号化 / 復号化するための暗号アルゴリズムを選択します。IKE セッション用暗号情報設定が未定義の場合は、IKE が動作しません。

ハッシュアルゴリズム

IKE セッションのネゴシエーションパケットを認証するためのハッシュアルゴリズムを選択します。

PFS グループ

自動鍵交換で鍵を生成するための鍵素材を選択します。

値が大きいく程セキュリティ強度は高くなりますが、その分鍵生成のための計算に時間がかかるため、装置の負荷が高くなる場合があります。

SA 有効時間

IKE SA の有効期限を時間で指定します。指定した時間が経過した時点、SA の有効期限が切れ、IKE SA 情報や鍵情報がIKEによって自動的に更新されます。以下の範囲で SA 有効時間を指定します。

有効範囲)

1 ~ 24 時間

10 ~ 1440 分

600 ~ 86400 秒

アナログ共通情報

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「アナログ共通情報」

アナログ共通情報 ISDN

このページでは、アナログポート1,2に共通する情報を設定できます。

[網契約関連設定](#) [装置動作設定](#)

[網契約に関連する設定項目]



電話番号													
フレックスホン	☒ フレックスホン ☐ 疑似フレックスホン 三者通話 ☒ 使用しない ☐ 使用する 通信中転送 ☒ 使用しない ☐ 使用する												
着信転送	☒ 使用しない ☐ 着信転送 ☐ 疑似着信転送 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr><td style="padding: 2px;">契約者番号の転送先</td><td style="padding: 2px;"> </td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">ポート1のダイヤルインの転送先</td><td style="padding: 2px;"> </td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">ポート2のダイヤルインの転送先</td><td style="padding: 2px;"> </td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">鳴り分け番号1の転送先</td><td style="padding: 2px;"> </td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">鳴り分け番号2の転送先</td><td style="padding: 2px;"> </td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">鳴り分け番号3の転送先</td><td style="padding: 2px;"> </td></tr> </table> ※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください 転送元トーク ☒ あり ☐ なし 転送トーク ☒ あり ☐ なし ※疑似着信転送を使用する場合、転送元／転送トークの指定は無効になります	契約者番号の転送先		ポート1のダイヤルインの転送先		ポート2のダイヤルインの転送先		鳴り分け番号1の転送先		鳴り分け番号2の転送先		鳴り分け番号3の転送先	
契約者番号の転送先													
ポート1のダイヤルインの転送先													
ポート2のダイヤルインの転送先													
鳴り分け番号1の転送先													
鳴り分け番号2の転送先													
鳴り分け番号3の転送先													
i・ナンバー	☒ 使用しない ☐ 使用する [i・ナンバー情報1] 鳴り分け番号1 動作モード ポート1のみ着信 [i・ナンバー情報2] 鳴り分け番号2 動作モード ポート2のみ着信 [i・ナンバー情報3] 鳴り分け番号3 動作モード 両ポート着信												

[装置の動作に関連する設定項目] 

設定変更用暗証番号	
留守状態設定	☒ 在宅 ☐ 留守
留守確認用番号	
ダイヤル桁間タイム	5秒 v
フッキング時間	☒ 早い ☐ 標準 ☐ 遅い
#機能ボタン使用	☒ する(1回入力) ☐ する(2回入力) ☐ しない
外線リング音	リング音1 v
内線リング音	リング音2 v

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[網契約に関連する設定項目]

ISDN回線加入契約の内容に関する情報を設定します。

電話番号

自局の電話番号を半角数字 32 桁以内で指定します。区切り文字として、-、(、)を使用します。この番号は、発信者番号通知機能を使用する場合、アナログ発信時に網に通知します。また、着信時に網が自局番号を通知しない場合、当番号をシステムログで表示します。

フレックスホン

NTTとの契約により、三者通話、および通信中転送機能を使用する場合は、“フレックスホン”を選択します。NTTと未契約で擬似的に使用する場合は、“疑似フレックスホン”を選択します。

三者通話

通話中にその通話を保留して、別の相手に電話をかけることができます。同時に三者で通話することもできます。

通信中転送

通話中に別の相手に電話を転送することができます。

着信転送

かかってきた電話を、契約者番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号ごとに別の電話に自動で転送することができます。転送先電話番号を 32 桁以内で指定します。区切り文字として、-、(、)を使用します。

使用しない

着信転送を行いません。

着信転送

着信転送を使用するにはNTTと契約する必要があります。

着信転送を使用する場合に、以下の「転送元トーク」を流すかどうかを指定します。
「電話が転送されます。」など

着信転送を使用する場合に、以下の「転送トーク」を流すかどうかを指定します。
「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください。」など

疑似着信転送

疑似着信転送機能を使用して着信転送を行います。疑似着信転送機能を使用すると、NTTとの契約がなくても疑似的に着信転送を利用できます。

i・ナンバー

本装置の背面のTEL1、TEL2に接続しているアナログ機器を鳴り分けることができます。

i・ナンバーを使用するにはNTTと契約する必要があります。i・ナンバーを使用するかどうかを選択します。使用する場合は、以下の項目を指定します。

鳴り分け番号

鳴り分け番号1には、契約者番号を半角数字32桁以内で指定します。鳴り分け番号2、3には、i・ナンバーサービス契約時に通知する契約者番号以外の番号を半角数字32桁以内で指定します。

動作モード

i・ナンバーで着信があった場合の動作を選択します。

[装置の動作に関連する設定項目]

本装置につなぐアナログ機器を利用する場合、その接続機器の動作に関する情報を設定します。

設定変更用暗証番号

外線からの設定変更時に使用する暗証番号を0～9までの数字4桁で指定します。

留守状態設定

“在宅”、または“留守”を選択します。

“留守”を選択する場合、外線からサブアドレス（留守確認用番号）つき発信することで、無課金で留守状態を確認できます。留守確認用番号の指定が必要です。

留守確認用番号

外線からの留守状態確認時に使用する確認用番号を0～9までの数字4桁で指定します。

ダイヤル桁間タイマ

アナログポートに接続する電話やFAXからダイヤルするときに、最後のダイヤル入力からINSネット64に発信するまでの時間を変更できます。

フッキング時間

電話機のキャッチボタン（フックボタン、フラッシュボタン）が正常に動作しない場合に認識時間を変更できます。

#機能ボタン使用

「#」を機能ボタンとして使用するかどうかを選択します。

外線／内線リング音

外線用、内線用のリング音を選択できます。リング音1は「リーン・リーン」、リング音2は「リンリン・リンリン」、リング音3は「リンリンリン・リンリンリン」です。

アナログポート1 / 2 情報

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「アナログ1 / 2 情報」

アナログポート1情報 **ISDN**

このページでは、アナログポート1に関する情報を設定することができます。

[網契約関連設定](#) [装置動作設定](#) [発信規制情報設定](#)

[網契約に関連する設定項目]



ダイヤルイン番号	
グローバル着信	☒ する ☐ しない
発信者番号通知	☐ する ☐ しない ☐ 網契約に従う
キャッチホン	☐ キャッチホン ☐ 使用しない ☐ 疑似キャッチホン

[装置の動作に関連する設定項目]



接続機器	☐ 電話 ☐ FAX(キャッチホン着信) ☐ モデム ☐ FAX ☐ FAX(無鳴動強制着信) ☐ FAX(無鳴動識別着信) ☐ なし
サブアドレス	
発信/着信選択	☒ 発信 ☐ 発信のみ ☐ 着信のみ
受話音量	☐ 小 ☒ 中 ☐ 大
リバーサルパルス送出	☐ 送出する ☐ 送出しない
通話中着信音送出時間	0秒 v
フレックスホン自動切替	☐ 使用する ☐ 使用しない
通信前情報通知	☒ 使用しない ☐ モデム信号での通知 ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する ☐ モデムダイヤルインを使用する 使用モード設定: v ☐ PB信号での通知 アナログダイヤルインを使用する
キャッチホン・ディスプレイ	使用しない v

[発信規制情報設定]

外線発信を抑止する局番または電話番号

発信抑止電話番号	追加/削除
	追加
全削除	

外線発信を許可する局番または電話番号

発信許可電話番号	追加/削除
	追加
全削除	

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル

[網契約に関連する設定項目]

ISDN回線加入契約の内容に関する情報を設定します。

ダイヤルイン番号

ダイヤルイン番号を32桁以内で指定します。

INSネット64の契約時にダイヤルインサービスを契約している場合は、ダイヤルイン番号を指定することにより、本装置背面のTEL1、TEL2に接続しているアナログ機器を呼び分けることができます。

ダイヤルイン番号をどれかのポートに割り振り、割り振った側の設定を行います。

ダイヤルインサービスの契約で、「グローバル着信利用を選択しない」場合は、契約者回線番号もダイヤルイン番号として利用できます。

INSネット64の契約内容（ダイヤルインサービス、グローバル着信利用）、本装置の設定内容（ダイヤルイン番号、グローバル着信）、および相手がダイヤルする番号によって着信条件が変わります。

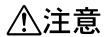
グローバル着信

INSネット64契約の内容が以下のどちらかに該当し、相手が契約者回線番号をダイヤルする場合、この指定により、本装置背面のTEL1、TEL2に接続しているアナログ機器の呼出しを指定できます。

- ・ダイヤルインサービスを契約していない
- ・ダイヤルインで「グローバル着信利用」で契約している

グローバル着信するかどうかを選択します。呼出しをするポートには、“する”を選択します。

INSネット64の契約内容（ダイヤルインサービス、グローバル着信利用）、本装置の設定内容（ダイヤルイン番号、グローバル着信）、および相手がダイヤルする番号によって着信条件が変わります。



注意

ダイヤルインサービスを契約していない場合は、グローバル着信を“する”にしてください。

発信者番号通知

発信者番号（契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号）を着信者側に通知するサービスです。

発信者はポートごとに発信者番号を通知するかどうか、または網契約内容に従うかを選択できます。網契約に従う場合は、INS ネット 64 申込時の契約内容に従います。

ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号を通知する場合は、「ダイヤルイン番号」に通知する電話番号を指定します。

キャッチホン

通話中に別の相手からの着信があると、その通話を保留して新しい相手と通話することができます。キャッチホンを使用するにはNTTと契約する必要があります。

フレックスホン未契約の場合は、“疑似キャッチホン”を選択すると疑似的にキャッチホンが使用できます。

接続機器でモデム / FAX を指定するポートには、通信を妨げないためにコールウェイティング動作は行いません。

[装置の動作に関連する設定項目]

本装置のアナログポート1（TEL1）につないだアナログ機器を利用する場合、その接続機器の動作に関する情報を設定します。

接続機器

アナログポート1に接続する機器を以下の中から選択します。

電話

電話を接続する場合に指定します。

FAX（キャッチホン着信）

電話つきFAXを接続し、発信時はFAXの動作、着信時は電話として動作する場合に指定します。

モデム

モデムを接続する場合に指定します。

FAX

FAXを接続する場合に指定します。

FAX（無鳴動強制着信）

無鳴動着信機能（FAXを受信するときに、着信音を鳴らさずに応答する機能）を備えたFAXを接続する場合に指定します。

FAX（無鳴動識別着信）

無鳴動着信機能を備えたFAXを接続する場合に指定します。相手がG3FAXの場合だけ無鳴動着信を行います。

なし

アナログポート1は使用できません。

サブアドレス

サブアドレスを半角英数字19文字以内で指定します。

サブアドレス番号を指定し、相手が発信するときに、そのサブアドレスを指定することで、本装置背面のTEL1、TEL2に接続しているアナログ機器を呼び分けることができます。

なお、相手がアナログ電話網から発信する場合は、サブアドレスが使用できないので、この指定による呼び分けは利用できません。

本装置のサブアドレス設定、および相手側のサブアドレスの利用状況によって着信条件が変わります。

発信 / 着信選択

該当するポートが発信専用 / 着信専用、または発着信可能かどうかを選択します。

受話音量

該当するアナログポートの受話音量を選択します。

リバースパルス送出

該当するアナログポートでリバースパルス信号を送出するかどうかを選択します。

リバースパルスは、外から電話がかかってきて通話中に相手から電話を切った場合に、通話が終了したことを通知する信号です。例えば、留守番電話で相手が切断すると同時にメッセージの録音を終了する機能を備えているときに有効です。

通話中着信音送出時間

外線通話中に第三者から着信があると通話中に着信音が聞こえます。この通話中に着信音を送出し続ける時間を0～30秒の範囲で指定します。0を指定すると第三者が切断するまで送し続けます。

なお、指定時間が経過し、通話中に着信音が聞こえなくなっても第三者が切断しなければ、フレッキングにより第三者と通話ができます。

フレックスホン自動切替

フレックスホン自動切替えを使用するかどうかを選択します。

この機能は、フレックスホンを利用して通話中に、話している相手が電話を切断した場合、自動的に保留になっている相手と通話できる機能です。

通信前情報通知

アナログポートでの通信（通話）を開始する前にアナログ通信機器に対して情報を通知する機能です。以下の項目から選択します。

使用しない

通信前情報通知機能を使用しません。

モデム信号での通知

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器を使用している場合、“ナンバー・ディスプレイを使用する”をチェックすると、アナログ機器に相手番号を表示できます。

NTTのナンバー・ディスプレイサービスを契約していない場合、アナログ電話網からの電話に関しては、相手番号が表示されません。また、相手側の契約内容により相手番号が表示されない場合もあります。

使用モード設定を“モード1”にして正常に動作しない場合は、“モード2”にします。

モデムダイヤルイン対応アナログ機器を使用している場合、“モデムダイヤルインを使用する”をチェックすると、電話やFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、モデム信号で相手電話番号を電話機に通知します。

使用モード設定を“モード1”にして正常に動作しない場合は、“モード2”にします。

PB 信号での通知

アナログダイヤルイン対応アナログ機器を使用している場合、電話やFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信するときに、PB 信号で相手電話番号を電話機に通知します。

キャッチホン・ディスプレイ

キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用している場合、「キャッチホン・ディスプレイ」の設定を「使用する（モード1）」にすることにより、アナログ通信機器に話中着信相手番号を表示することができます。

キャッチホン・ディスプレイ機能を使用している場合は、キャッチホンの設定を行う必要があります。

NTTのナンバー・ディスプレイサービスを契約していない場合、アナログ電話網からの電話に関しては、相手電話番号が表示されません。また、相手側の契約内容により相手電話番号が表示されない場合もあります。

「使用する（モード1）」で正常に動作しない場合は、「使用する（モード2）」、「使用する（モード3）」または「使用する（モード4）」にします。

[発信規制情報設定]

事前に登録した電話番号への外線発信が抑止できます。また、抑止した局番内の特定相手だけ外線発信を許可することもできます。現在、設定されている発信規制情報の一覧です。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

発信規制情報設定（発信抑止）

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「アナログ1 / 2 情報」→[発信規制情報設定]

発信規制情報設定(アナログポート1)

[外線発信抑止番号設定]

抑止番号

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

前に戻る

[外線発信抑止番号設定]

あらかじめ外線発信を抑止する局番や電話番号を登録しておきます。ポートごとに発信を抑止する番号を指定できます。

抑止番号

外線発信を抑止する番号を半角数字32桁以内で指定します。

発信規制情報設定（発信許可）

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「アナログ1 / 2 情報」→[発信規制情報設定]

発信規制情報設定(アナログポート1)

[外線発信許可番号設定]

許可番号

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

前に戻る

[外線発信許可番号設定]

あらかじめ外線発信を規制する局番や電話番号を登録しておきます。ポートごとに発信を許可する番号を指定できます。

許可番号

外線発信を許可する番号を半角数字 32 桁以内で指定します。

4

送出着信番号情報

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「送出着信番号情報」

送出着信番号情報 **ISDN**

このページでは、アナログポートの送出着信番号を設定できます。

送出着信番号情報

番号送出方法設定

☒ 網から通知された番号を送出する
☐ 指定された番号を送出する

送出番号設定

- ・契約者番号での着信時
- ・ポート1のダイヤルイン番号での着信時
- ・ポート2のダイヤルイン番号での着信時
- ・鳴り分け番号1での着信時
- ・鳴り分け番号2での着信時
- ・鳴り分け番号3での着信時

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新
キャンセル

[送出着信番号情報]

モデムダイヤルイン、アナログダイヤルイン時に、接続機器に送出する着信番号について設定できます。

番号送出方法設定

接続機器に着信番号の送出する方法を選択できます。

送出番号設定

それぞれの着信番号ごとに、機器に送出する番号を20桁以内で指定できます。なお、アナログダイヤルイン時には、指定した番号の下4桁を送出します。

識別着信情報

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「識別着信情報」

識別着信情報 **ISDN**

このページでは、アナログポートの識別着信情報を設定できます。
識別着信情報は最大10定義まで設定できます。

[識別着信共通情報]
 

識別着信
優先リング回数

5 回

識別リング音

☐ 相手電話番号識別

リング音3

☒ 着信電話番号識別

契約者番号

リング音1

ポート1のダイヤルイン番号

リング音3

ポート2のダイヤルイン番号

リング音3

鳴り分け番号1

リング音1

鳴り分け番号2

リング音2

鳴り分け番号3

リング音3

[識別着信情報一覧]
 

識別定義名	相手電話番号	相手サブアドレス	動作モード	修正/削除
デフォルト定義			両ポート着信	修正
公衆電話着信			両ポート着信	修正
発信者番号非通知着信			両ポート着信	修正
追加 全削除				

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

[識別着信共通情報]

着信時に相手の発信者番号によって異なる着信時の呼び出し動作を指定できます。ここでは、識別着信情報の一覧にある相手先すべてに共通する動作を指定します。

識別着信優先リング回数

優先ポートとして指定したポートだけ呼び出すリングの回数を指定します。指定回数呼び出しても受話器を取らない場合は、両ポートの呼び出しを行います。1～10の範囲で指定できます。

識別リング音

識別着信用のリング音を選択できます。リング音1は「リーン・リーン」、リング音2は「リンリン・リンリン」、リング音3は「リンリンリン・リンリンリン」です。

“ 相手電話番号識別 ” を選択する場合は、「識別着信情報一覧」で定義した相手から着信かどうかを識別し、選択したリング音で鳴動します。“ 着信電話番号識別 ” を選択する場合は、着信する番号を識別し、選択するリング音で鳴動します。

[識別着信情報一覧]

現在、設定されている識別着信情報の一覧です。定義はデフォルト定義、公衆電話着信、発信者番号非通知着信と、それ以外に10個まで設定できます。処理するボタンをクリックし、次のページに進みます。

デフォルト定義

識別着信情報で、相手先に設定されていない相手からかかってきた電話の着信時の動作を指定します。

公衆電話着信

公衆電話からかかってきた電話の着信時の動作を指定します。

発信者番号非通知着信

発信者番号を通知してこない電話の着信時の動作を指定します。

識別着信情報設定（デフォルト定義）

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「識別着信情報」→[識別着信情報一覧]

識別着信情報設定

[識別着信情報]

動作モード

両ポート着信

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

前に戻る

[識別着信情報]

デフォルト定義には、相手先に設定していない相手からの着信の場合の動作を指定します。

動作モード

相手先に設定していない相手からの着信があるときの動作を指定します。

4

識別着信情報設定（公衆電話着信）

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「識別着信情報」→[識別着信情報一覧]

識別着信情報設定

[公衆電話着信情報]

動作モード

両ポート着信

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

前に戻る

[識別着信情報]

公衆電話着信には、公衆電話からの着信の場合の動作を指定します。

動作モード

公衆電話からの着信があるときの動作を指定します。

識別着信情報設定（発信者番号非通知着信）

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「識別着信情報」→[識別着信情報一覧]

識別着信情報設定

[発信者番号非通知着信情報] ?

動作モード 両ポート着信

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 キャンセル 前に戻る

[識別着信情報]

発信者番号非通知には、相手から発信者番号が通知されない場合の動作を指定します。公衆電話からの着信は、発信者番号非通知着信に含まれません。

動作モード

発信者番号非通知の着信があるときの動作を指定します。

4

識別着信情報設定

【操作】「詳細設定メニュー」→アナログ設定「識別着信情報」→[識別着信情報一覧]

識別着信情報設定

[識別着信情報]

識別定義名

相手電話番号

相手サブアドレス

動作モード

両ポート着信

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

キャンセル

前に戻る

[識別着信情報]

相手電話番号および相手サブアドレスをキーとして相手を特定し、着信時の呼び出し動作を変えることができます。

相手先の定義は10個まで指定します。(識別着信用リング音で呼び出します)

識別定義名

登録する識別着信情報の名称を半角英数字16文字以内で指定します。

相手電話番号

登録する相手の電話番号を市外局番から半角数字32桁以内で指定します。

相手サブアドレス

必要に応じて、着信相手を識別するためのサブアドレスを半角英数字19文字以内で指定します。

動作モード

該当相手からの着信があった時の動作を指定します。

⚠注意

利用するには、NTTのナンバー・ディスプレイサービスの契約が必要です。ただし、相手の方がINSネット64から発信者番号を通知して電話をかけて来た場合は、未契約の場合でも利用できます。